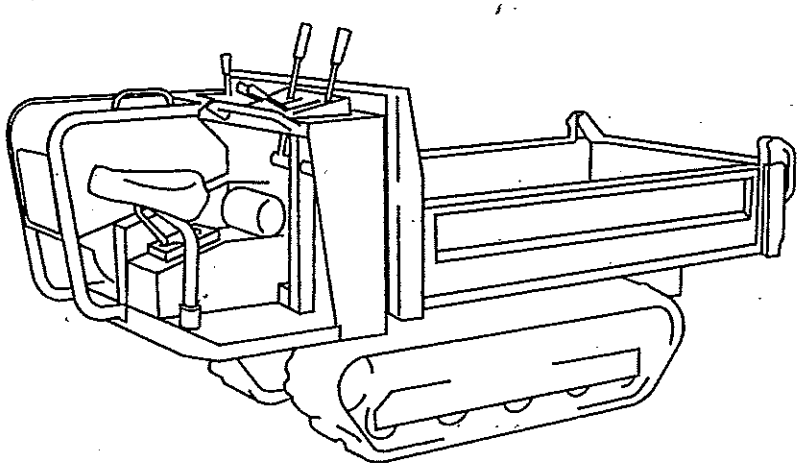
CANYCOM

不整地運搬車
S8A

取扱説明書



⚠警　告

この説明書を読んで理解するまでは、本製品の運転および保守・点検を行わないでください。

この説明書は、本製品の運転または保守・点検を行う場合、いつでも調べられるように大切に保管してください。

36665101000

株式会社 筑水キャニコム
〒839-1396　福岡県うきは市吉井町福益90-1
TEL (0943)75-2195 (代) FAX (0943)75-4396

ユーザーの皆様へ

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。ご使用になる前に、この「取扱説明書」をよくお読みいただいて、正しい取り扱いをしてください。

⚠警　告

本製品には、潜在する危険があることを知らなければなりません。したがって、本製品の運転および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。

⚠警　告

本製品は、公道および公道とみなされる道路での運転はできません。当該道路上での運転による事故および違反につきましては、責任を負いかねます。

⚠警　告

本製品を改造して使用しないでください。また、本体の安全カバー等を取外して運転しないでください。重大な事故の原因となります。

事業者の皆様へ

⚠ 注　意

本製品は、労働安全衛生法施行令で定める不整地運搬車に該当します。本製品は最大積載量が１トン未満の運搬車ですが、運転には、特別教育の修了が必要です。また、不整地運搬車は日常点検、定期自主点検、特定自主点検が義務付けられています。なお、定期自主点検記録は３年間保存してください。

リース（レンタル）業者の皆様へ

⚠ 注　意

本製品を他の事業者または個人に貸す際には、取扱い方法を明確に説明し、使用の前に本書を必ず読むように指導してください。

目　　次

1. はじめに 1

1.1 本書の目的について 1
1.2 本書の構成について 1
1.3 本書の警告用語について 2
1.4 本製品に貼付してある警告ラベルについて 2

2. 保証とアフターサービスについて 3

3. 安全運転・作業のための心得 4

4. 各部の名称とはたらき 8

5. 製品仕様 9

5.1 本製品の仕様 9
5.2 工具袋明細 10

6. 運転と操作 11

6.1 始動前の準備 11
6.1.1 燃料の給油 11
6.1.2 エンジンオイル量の点検と補給 12
6.1.3 エンジン冷却水量の点検と補給（ディーゼル車のみ） 12
6.2 始動のしかた 13
6.3 運転のしかた 18
6.4 停止のしかた 20
6.5 ダンプ操作 22

7. 保守（お手入れ） 23

7.1 定期点検表 23
7.2 給油、給脂、注油、給水一覧表 27
7.3 消耗品（交換部品）一覧表 27
7.4 給油 28
7.4.1 エンジンオイル 28
7.4.2 トランスミッションオイル 29
7.4.3 パワーパッケージオイル（油圧ダンプ用オイル） 30
7.5 給脂・注油 31
7.5.1 転輪、支持転輪、遊動輪 31
7.5.2 各摺動部 31
7.6 給水 32
7.6.1 エンジン冷却水（ディーゼルエンジン車） 32
7.6.2 バッテリ液（セルフスタータ式） 32
7.7 清掃 33
7.7.1 エアクリーナエレメント 33
7.7.2 点火プラグ（ガソリンエンジン車） 33
7.7.3 ラジエータ（ディーゼルエンジン車） 34
7.7.4 エンジンオイルフィルタ（ディーゼルエンジン車） 35
7.7.5 フューエルフィルタ 35
7.8 調整 36
7.8.1 冷却ファンベルトの張り（ディーゼルエンジン車） 36
7.8.2 Vベルト 36
7.8.3 走行クラッチ 37
7.8.4 駐車ブレーキ 37
7.8.5 サイドクラッチ 38
7.8.6 クローラの張り 38
7.8.7 ベルトストッパ 39
7.8.8 前ドアロック 40
7.9 使用後のお手入れ 40

8. 格納（長期保管） 41

8.1 本機（車両） 41
8.2 バッテリ（セルフスタータ式） 41
8.3 エンジン 42
8.3.1 フューエルコック 42
8.3.2 エアクリーナエレメントの清掃 42
8.3.3 エンジンオイルの交換 42
8.3.4 エンジン冷却水の排出（ディーゼル車） 42

9. 不具合発生時の処置 43

9.1 不具合診断表 43

10. 本機の移送 47

＜保証書＞

本書の巻末に添付
※ 本機の取扱説明を受けた後に、受領証と共にお受け取りください。

＜付 録＞

「エンジン取扱説明書」
※ 本書と併せて必ずお読みください。

1. はじめに

1.1 本書の目的について

本書の目的は、本製品について、正しい運転操作および保守・点検方法を知っていただくために詳しい情報を提供することです。
また、本書は、はじめてこの製品を使用される方を対象として制作しています。

1.2 本書の構成について

本書では以下の章に分けて情報を記載しています。

1．はじめに

この章では、本書の目的、構成および本書で使用している警告用語について説明しています。また、本製品に貼付してある警告ラベルについても記載しています。

2．保証とアフターサービスについて

この章では、本製品の保証およびアフターサービスに関する事項を記載しています。

3．安全運転・作業のための心得

この章では、運転時または作業時に必ず守っていただきたい一般安全事項を記載しています。

4．各部の名称とはたらき

この章では、各部の名称とはたらきについて説明しています。

5．製品仕様

この章では、本製品の仕様について記載しています。また、工具袋の明細についても記載しています。

6．運転と操作

この章では、運転前の準備、運転手順および操作方法について説明しています。

7．保守（お手入れ）

この章では、定期点検、給油、給脂、注油、給水、清掃、調整および使用後のお手入れに関する情報を記載しています。

8．格納（長期保管）

この章では、格納（長期保管）に関する情報を記載しています。

9．不具合発生時の処置

この章では、不具合が発生した場合の処置について記載しています。

10．本機の移送

この章では、本製品を移送する場合の方法と注意事項について説明しています。

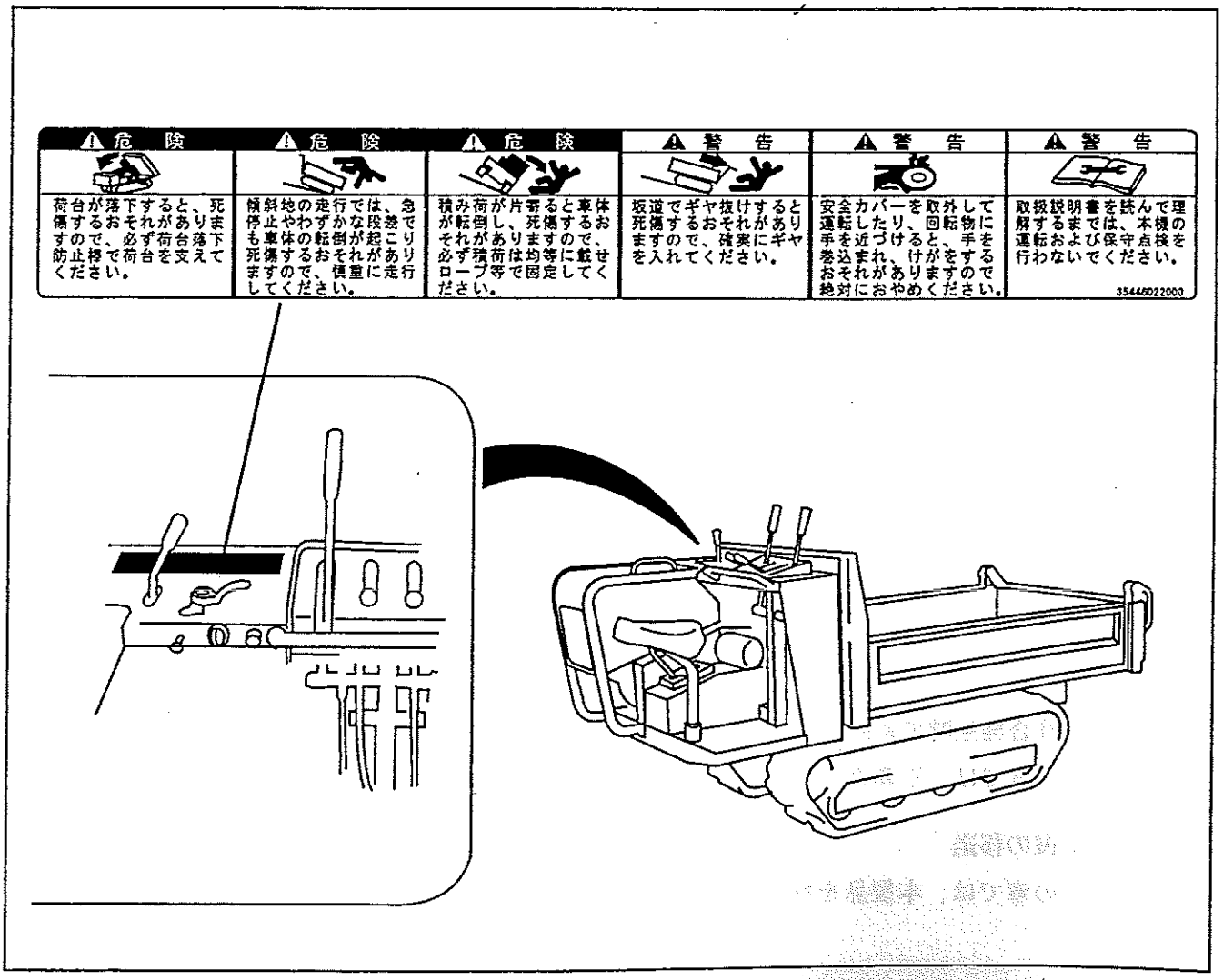
1.3 本書の警告用語について

本書では、危険度の高さ(または事故の大きさ)にしたがって、警告用語を次の4段階に分類しています。以下の警告用語がもつ意味を理解し、本書の内容(指示)に従ってください。

警告用語	意　味
⚠危　険	差し迫った危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う場合に使用されます。
⚠警　告	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う可能性のある場合に使用されます。
⚠注　意	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、中・軽傷を負う場合に使用されます。 また、本製品に物的損害が発生する場合にも使用されます。
注　記	とくに注意を促したり、強調したい情報について使用されます。

1.4 本製品に貼付してある警告ラベルについて

本製品には下記の警告ラベルが貼付してあります。はがれたり、見えにくくなった場合には、ラベル下の部品番号にて販売店へ注文し、新たに貼付してください。



2. 保証とアフターサービスについて

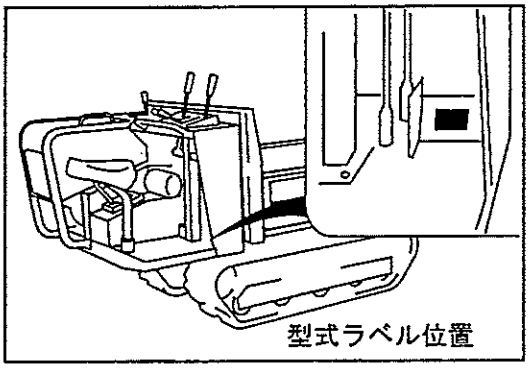
保証について

当社は本製品について、保証書の内容に基づいて保証いたします。詳しくは本書巻末に添付の保証書を参照してください。

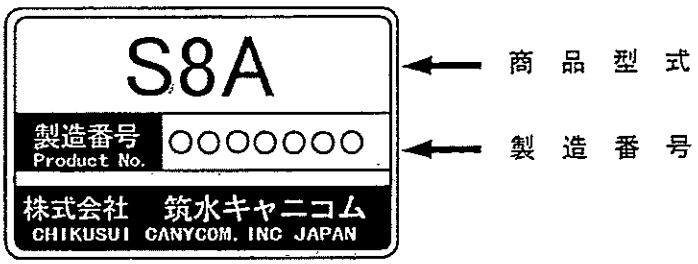
アフターサービスについて

ご使用中の不具合、ご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買いあげいただいた販売店または当社センターにお気軽にご相談ください。
その際、型式ラベルに記載の商品型式、製造番号および搭載エンジンのメーカー名、型式名を併せてご連絡ください。（搭載エンジンのメーカー名および型式名については、本書の第５章「製品仕様」を参照してください。）

＜型式ラベル位置＞



＜型式ラベル＞

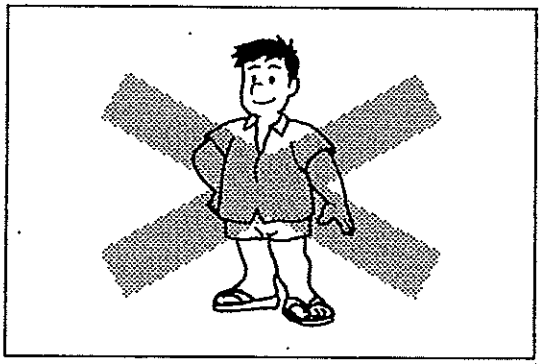


補修用部品の供給年限（期間）について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打切り後７年とします。

3. 安全運転・作業のための心得

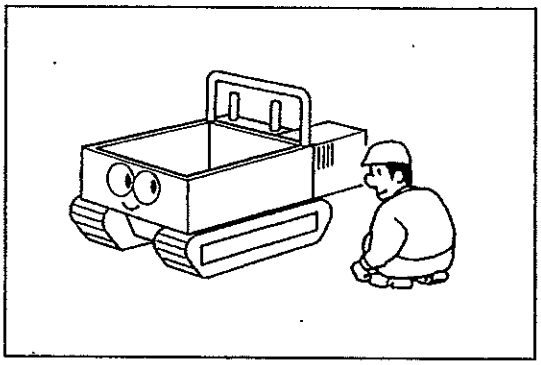
この章では、運転時または作業時に必ず守っていただきたい一般安全事項を記載しています。本章以外で記載している各章の安全事項についても必ず従い、安全運転、安全作業を心掛けてください。



運転前の心得

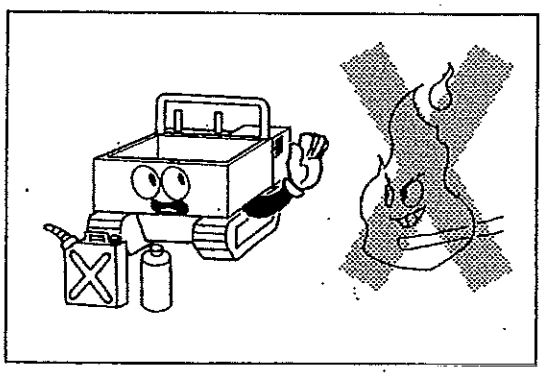
⚠ 正しい服装の励行

運転および作業にふさわしい服装を心掛け、軽装やサンダル履き等で運転や作業をしないでください。



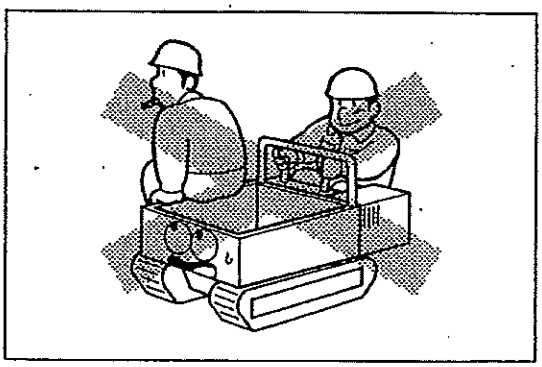
⚠ 始業点検の励行

運転の前に始業点検を必ず励行し、異常箇所は直ちに補修してください。



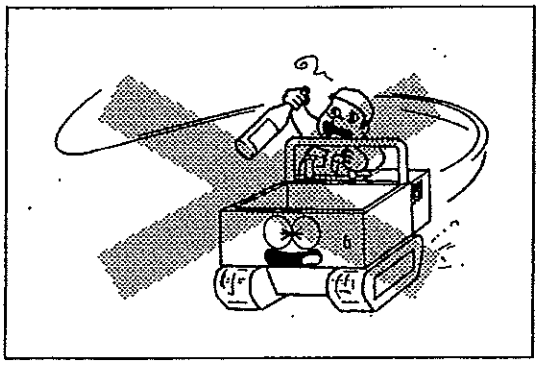
⚠ 火気厳禁

燃料、油脂の取扱い時は、絶対に火気（タバコの火など）を近付けないでください。また、バッテリの充電中やエンジンの整備時にも火気には十分注意して作業をしてください。



⚠ 同乗禁止

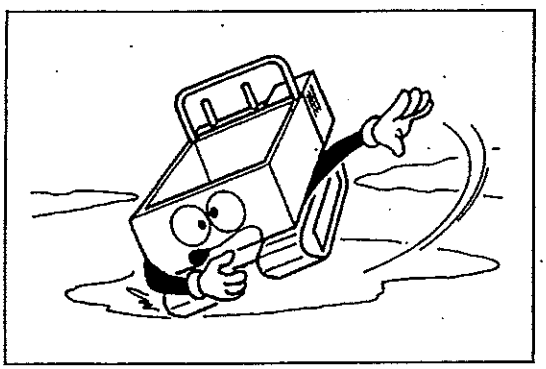
本製品は一人乗りです。同乗車を伴う運転は、重心の移動等が起こり大変危険です。運転者以外は絶対に乗せないでください。



⚠ 無謀運転禁止

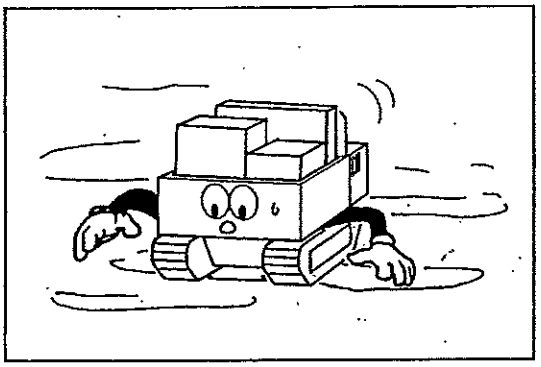
飲酒をして運転したり、体調不良時に無理に運転をすると大変危険です。絶対におやめください。
また、本製品の運転に適さない若年者の運転も絶対におやめください。

走行時の心得



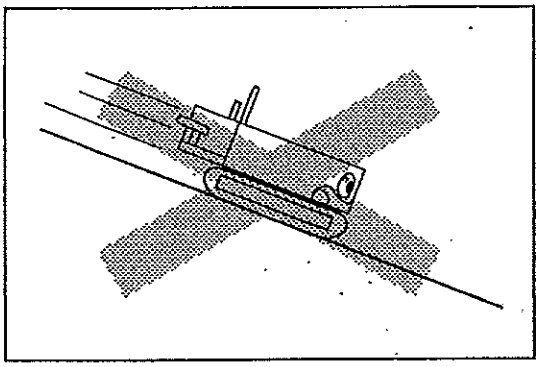
⚠ 急発進、急加速、急旋回、急ブレーキの禁止

急発進、急加速、急旋回および急ブレーキは避け、安全運転を心掛けてください。発進の前には必ず周囲の安全を確認し、軟弱な地盤やぬれた路面での急旋回および急停車はスリップや転倒を招くおそれがあり危険ですので、絶対にしないでください。



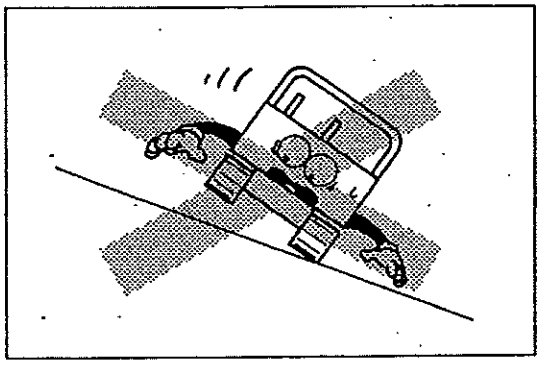
⚠ 安全速度遵守

走行時は、走行路の勾配、路面の状態および積載量に応じた安全速度で走行してください。



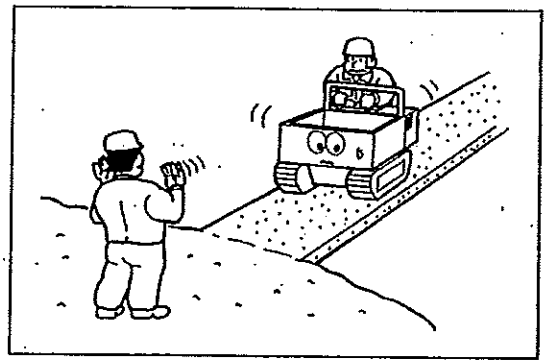
⚠ 下り坂ではエンジンブレーキを

下り坂の前では、一旦停止した後、変速レバーを低速に入れ、エンジンブレーキを必ず使用して減速を行ってください。十分な減速を行わないで停止操作を行うと、車体が浮き上がるおそれがあり危険です。



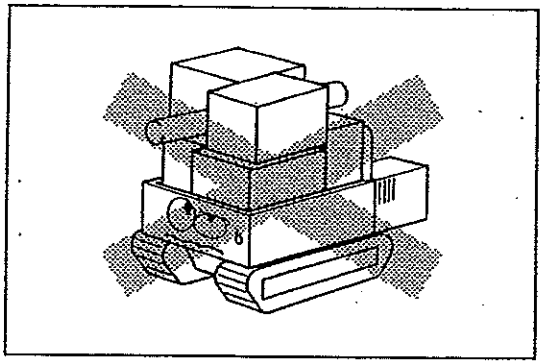
⚠ 斜面での横断禁止

傾斜地ではまっすぐ昇り降りしてください。斜面を横断すると危険です。また急傾斜地はサイドクラッチレバーを操作しないでください。やむを得ない時は、逆旋回に注意して素早く確実に操作してください。



⚠ 危険な場所では誘導者の指示に従う

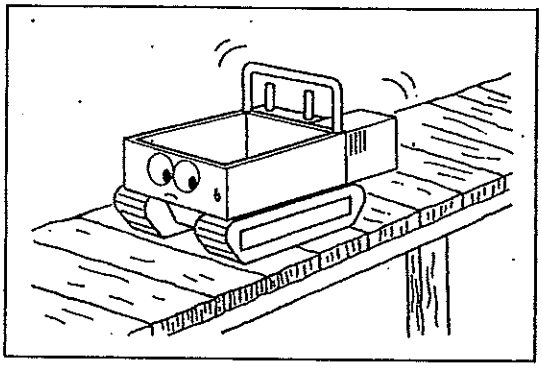
見通しの悪い場所や幅員の狭い道、傾斜や起伏の激しい道では誘導者の指示に従い、安全確認を十分行ってから走行してください。



積載時の心得

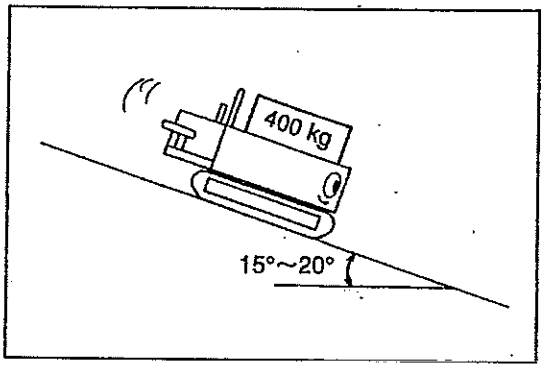
⚠ 過積載禁止

本製品の仕様で規定されている最大作業能力を超える積載はしないでください。



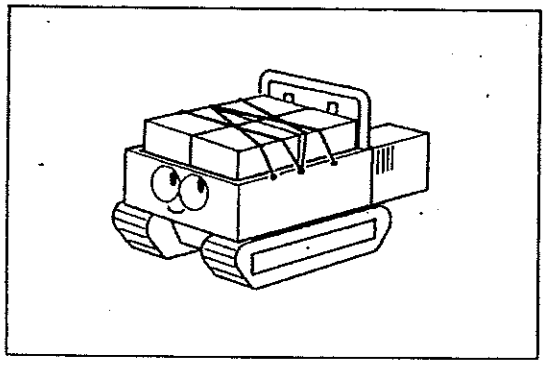
⚠ 制限重量に注意

木橋等を渡る時は、本製品の機械重量と積載量および運転者の体重の総重量が、木橋等の制限重量を超えないことを確認し、一定速度で慎重に通過してください。



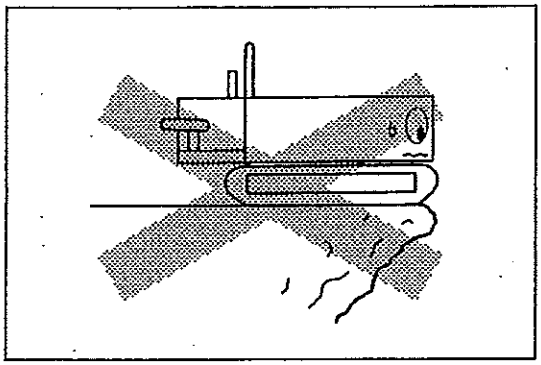
⚠ 傾斜地での積載量に注意

15°～20°の傾斜地では、積載量を400kg以下にして走行してください。20°を超える急傾斜地では、本製品をなるべく使用しないでください。やむを得ず使用する場合は、空車状態で運転してください。



⚠ 積み荷は正しく載せる

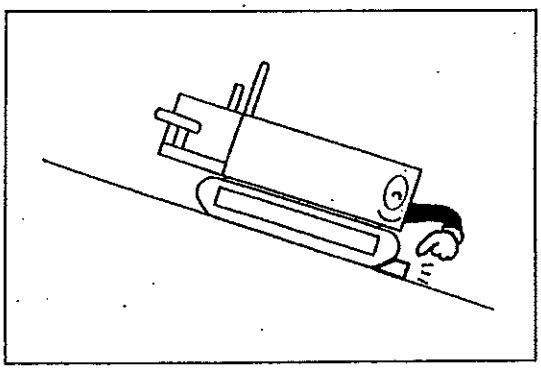
積み荷は偏荷重にならないよう、荷台に均一に載せ、ロープで固定するよう心掛けてください。また、積み荷の高さに注意し、視界を確保するよう注意してください。



駐車時の心得

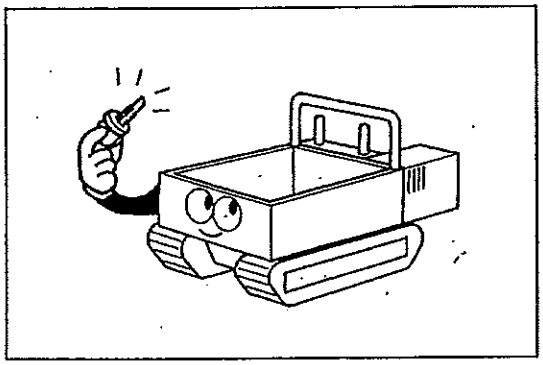
⚠ 危険な場所での駐停車禁止

駐停車の際は足場のよい平坦地に車体を止め、危険な場所での駐停車はしないでください。



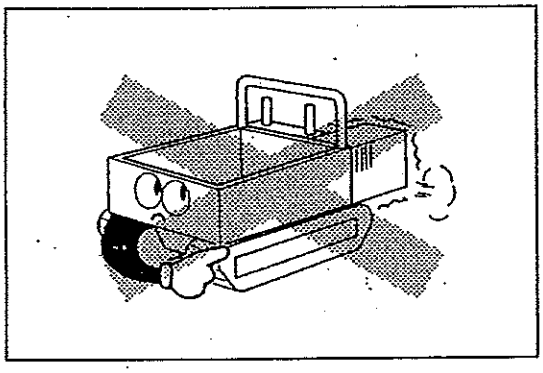
⚠ 坂道での輪止め励行

坂道での駐車は避けてください。やむなく坂道で駐車するときは、駐車ブレーキを確実にかけた後、輪止めをしてください。



⚠ 駐車時の安全確認

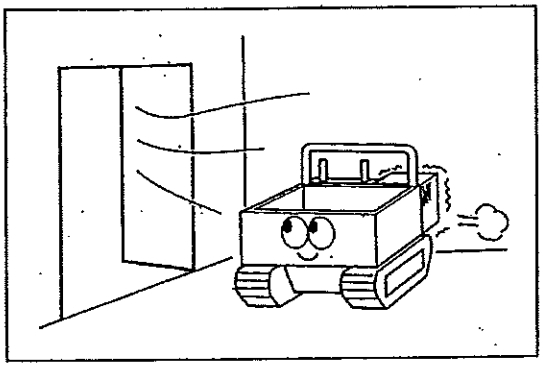
駐車時は、駐車ブレーキを必ずかけ、エンジン停止を励行してください。
また、キーを忘れずに抜いてください。(セルフスタータ式のみ)



整備時の心得

⚠ エンジン回転中の整備禁止

エンジン回転中は整備を行わないでください。
必ずエンジンを停止してから整備をしてください。



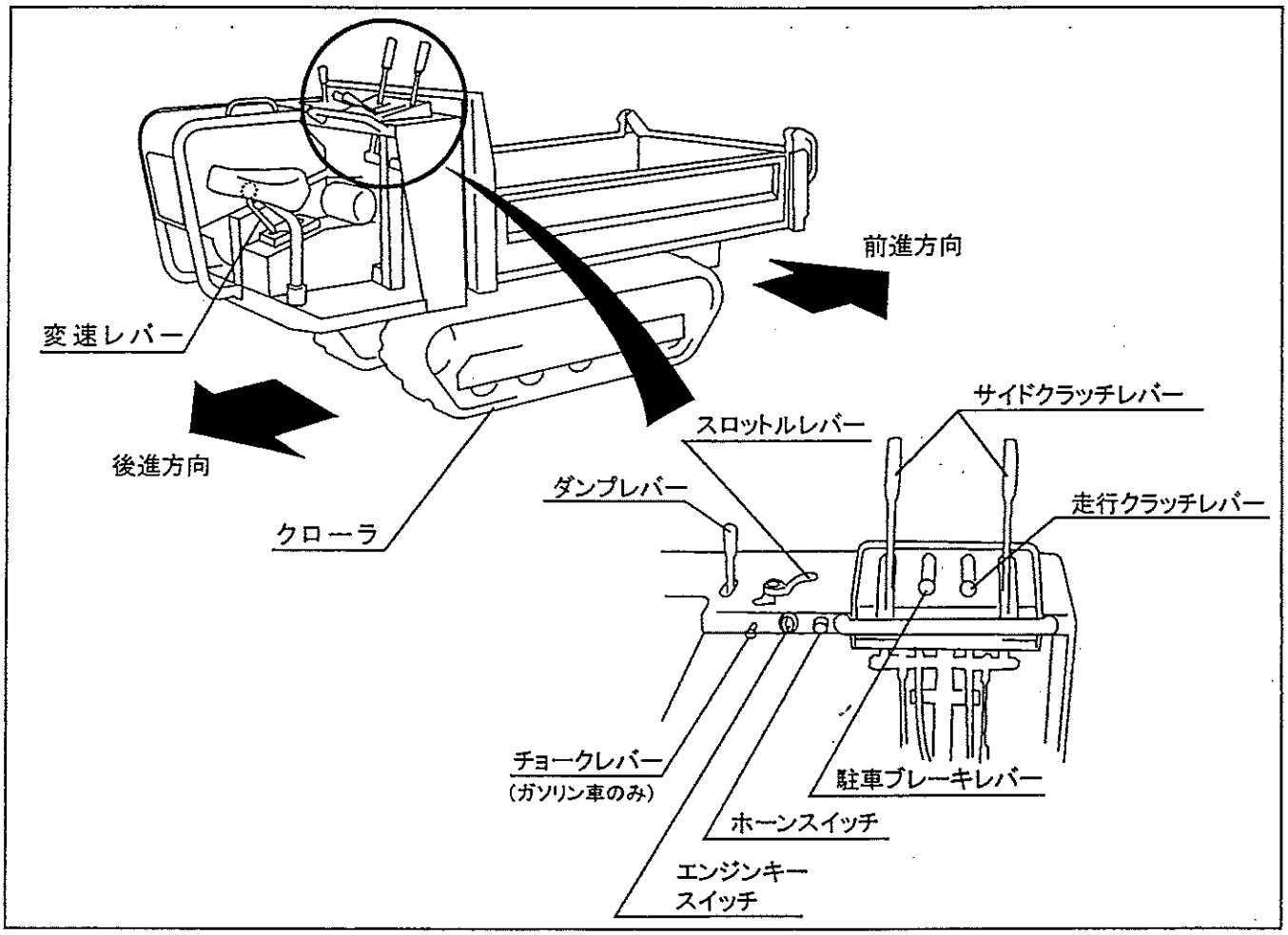
⚠ 換気に注意

室内でエンジンを運転させる時は、排気ガスによる中毒防止のため、換気をよくしてから作業を行ってください。

4 各部の名称とはたらき

1. 各部の名称とはたらき

各部の名称



各部のはたらき

- スロットルレバー ..... エンジン回転数の増減を行います。
- サイドクラッチレバー ..... 方向を変えるときに使用します。
  車体はレバーを引いた側へ曲がります。
  また、左右同時にレバーを引くとその場で急停止します。
- 走行クラッチレバー ..... エンジンからミッションへの動力を断続させます。
  レバーを前方へ倒すと「入（走行）」の状態、 レバーを後方へ倒すと「切（停車）」の状態になります。
- 駐車ブレーキレバー ..... 車体を確実に停車させます。レバーを前方に倒すと「切（ブレーキ解除）」の状態、後方に倒すと「入（ブレーキ作動）」の状態」になります。
- 変速レバー ..... 走行速度の選択に使用します。
  変速は走行クラッチレバーを「切（停車）」にして、 車体が停止した状態で行ってください。
- エンジンキースイッチ ..... エンジンを始動及び停止（ガソリン車のみ）させます。
  （セルフスタータのみ）
- チョークレバー ..... レバーを引くとチョーク弁が閉じ、戻すと開きます。エンジン始動時に引っ張り、始動後戻します。
  （ガソリン車のみ）
- ホーンスイッチ ..... ホーンスイッチを押すとホーンがなります。
  走行するときの警報・作業の合図等に使用します。
- ダンプレバー ..... 荷台の「上昇」、「下降」を行なうとき使用します。

5．製品仕様

5.1 本製品の仕様

注　記

本製品の仕様を理解した上で、正しく本製品を使用してください。

名称・形式				S8A		
				ガソリン車		ディーゼル車
				セル無し	セル付き	セル付き
機械質量			kg	580	590	645
最大作業能力			kN(kg)	7.8(800)		
機械寸法	全長		mm	2575		
	全幅		mm	980		
	全高		mm	1300		
	クローラ接地長さ		mm	1030		
	クローラ中心距離		mm	730		
	最低地上高		mm	125		
	床面高さ		mm	520		
荷台寸法	荷台内側寸法	長さ	mm	1620		
		幅	mm	890		
		高さ	mm	275		
荷台容積		平積	m^3	0.40		
		山積	m^3	0.54		
エンジン	名称			ロビンEH30		クボタEA8
	形式			空冷4サイクルOHVガソリン		水冷4サイクルディーゼル
	シリンダ(内径×行程)		mm	78×61		80×75
	総排気量		cm^3(cc)	291(291)		376(376)
	最大出力		kW/min^{-1}(PS/rpm)	6.6/1800(9.0/1800)		5.9/2600(8.0/2600)
	最大トルク		N·m/min^{-1}(kg·m/rpm)	38.2/1250(3.9/1250)		23.0/2000(2.35/2000)
	始動方式			リコイル	セル	セル
	使用燃料			ガソリン		軽油
	燃料消費率		g/kW·h(g/PS·h)	312(230)		290(213)
	燃料タンク容量		ℓ	6.0		7.5
	潤滑油容量		ℓ	1.2		2.3
	点火方式			電子点火		—
	バッテリ形式		V/AH	—	26A19R	46B24R
	バッテリ容量			—	12/21	12/36
	点火プラグ品番			BR6ES		—

名称・形式					S8A	
					ガソリン車	ディーゼル車
					セル無し / セル付き	セル付き
走行性能	走行速度	前進	1速	km/h	1.6	1.5
			2速	km/h	3.1	2.9
			3速	km/h	4.7	4.4
			4速	km/h	7.2	6.8
		後進	1速	km/h	1.5	1.4
			2速	km/h	2.8	2.7
			3速	km/h	4.3	4.1
	最小回転半径			m	1.8	
	登坂能力			度	25 (空車時)	
接地圧	空車時			KPa(kg/cm²)	11.2(0.115)	12.3(0.125)
	積載時			KPa(kg/cm²)	26.5(0.270)	27.5(0.281)
トランスミッション油量				ℓ	4.0	
動力伝達装置	クラッチ形式				ベルトテンション方式	
	主変速形式				ギヤスライド	
	操行装置形式				ドグクラッチ・ブレーキ式	
	ブレーキ形式				内拡式ブレーキ	
	クローラ				250×44×72	
ダンプ装置	ダンプ方式				油圧ダンプ	
	荷台形式				三方開き	
	油圧ポンプ	形式			ギヤポンプ	
		定格回転		min⁻¹(rpm)	1500(1500)	
		定格吐出量		cm³/s(ℓ/min)	133(8.0)	
		リリーフ設定圧		MPa(kg/cm²)	13.7(140)	
	シリンダ(内径×行程)			mm	60×300	
	性能	最大上昇角度		度	59.5	
		上昇時間		sec	約9.0	約6.0
		下降時間		sec	約5.0	約4.0
	油圧作動油量			ℓ	1.7	

※この仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

5.2 工具袋明細

No.	部品名	個数	備考
1	取扱説明書(本書)	1	
2	エンジン取扱説明書	1	
3	エンジン工具	1式	エンジン整備用

6．運転と操作

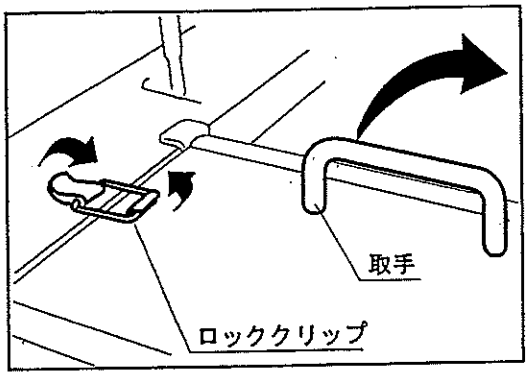
- 本章を読む前に第3章「安全運転・作業のための心得」（☞4ページ～7ページ）を必ずお読み下さい。
- 運転および操作については、必ず本章の指示に従い、自己判断による見切り操作は絶対にしないでください。

6.1 始動前の準備

6.1.1 燃料の給油

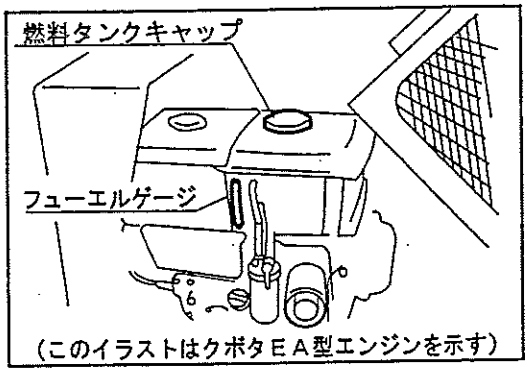
⚠危険

- 給油の際は火気（タバコの火など）を絶対に燃料およびエンジンに近付けないでください。引火の原因となります。
- 給油は必ずエンジンを停止した状態で行ってください。
- エンジン停止直後はエンジンが高温になっているため、給油の際に燃料注入口から燃料がこぼれないよう十分注意してください。こぼれた際には速やかにふき取ってください。



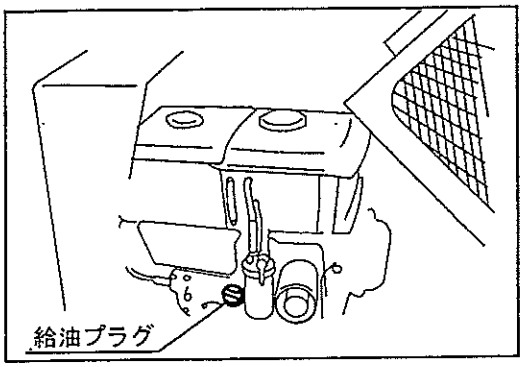
1．エンジンカバーのロッククリップを解除します。

2．エンジンカバーの取手を持ち上げ、エンジンカバーを持ち上げます。



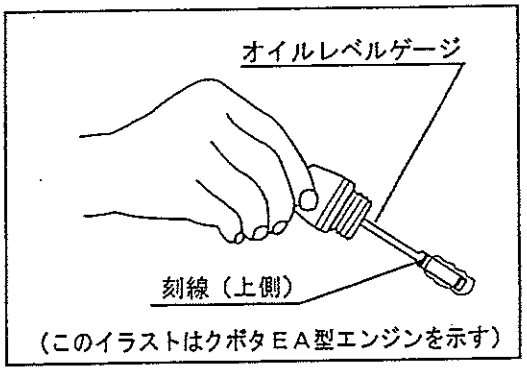
3．フューエルゲージを目視点検し、燃料が不足している場合は、燃料タンクキャップを開け、燃料を補給します。

使用燃料：ガソリン車：ガソリン
ディーゼル車：軽油
燃料タンク容量：☞27ページ



6.1.2 エンジンオイル量の点検と補給

1. エンジンオイルの給油プラグ(オイルレベルゲージ付き)を取外します。



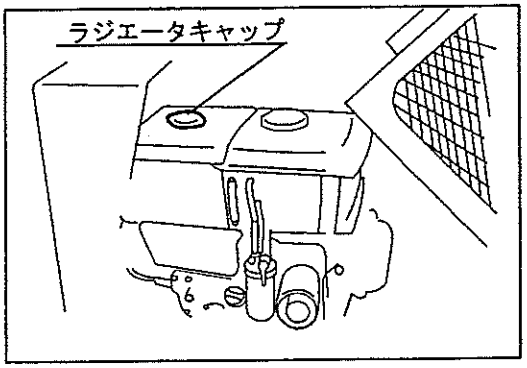
(このイラストはクボタＥＡ型エンジンを示す)

2. エンジンオイル量を目視点検し、規定量にない場合はエンジンオイルを補給します。

使用オイル :☞27ページ

エンジンオイル量 :
オイルレベルゲージの上側の刻線まで
(クボタEA型エンジンの場合:給油プラグをねじこんだ状態で点検、ロビンEH型エンジンの場合:給油プラグをねじ込まないで点検)

6.1.3 エンジン冷却水量の点検と補給(ディーゼル車のみ)



⚠ 注 意

運転中およびエンジン停止直後に注水口のキャップを開けると、熱湯が噴出してやけどすることがありますので、キャップは冷却水が冷めてから(エンジン停止後約10分程度)開けてください。

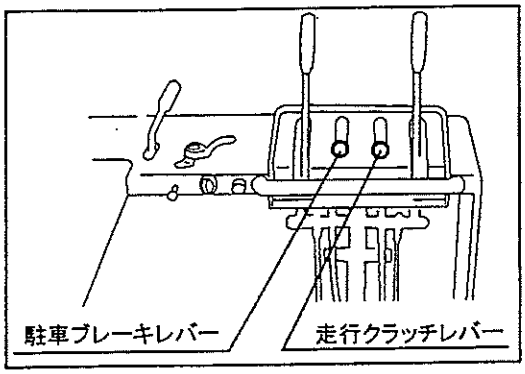
1. エンジンカバーを開けます。(☞11ページ)

2. ラジエータキャップを開けます。

3. エンジン冷却水量を目視点検し、必要な場合は補給します。

使用冷却水 : ☞27ページ
(不凍液の混合 : ☞32ページ)

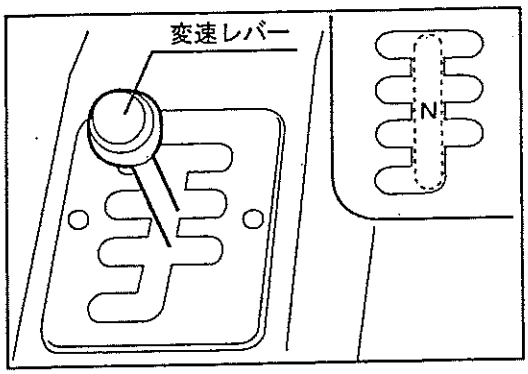
冷却水量 : ☞27ページ



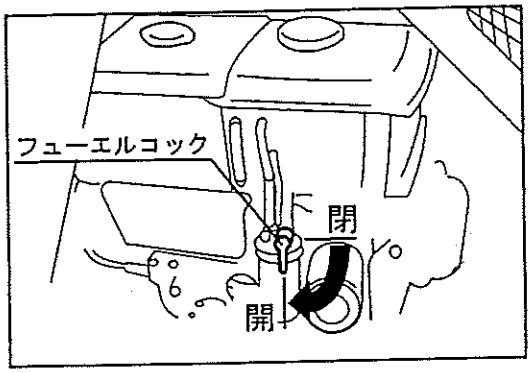
6.2 始動のしかた

> **⚠ 危 険**
>
> **エンジンの始動は、必ず換気のよい場所で行ってください。**

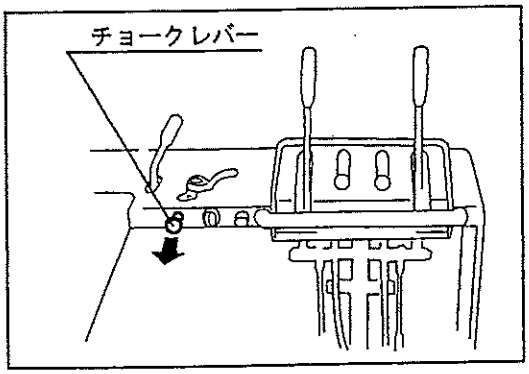
1. 走行クラッチレバーが「切」、駐車ブレーキレバーが「入」の位置にあることを確認します。



2. 変速レバーを「中立（ニュートラル）」の位置にします。



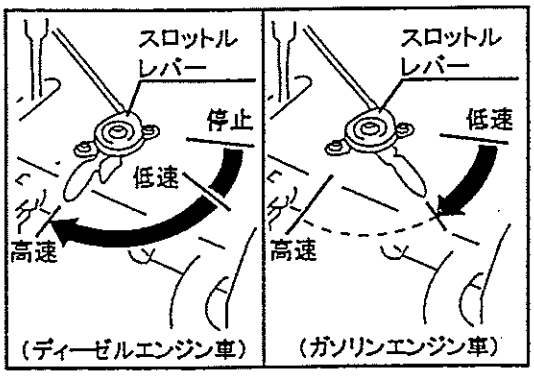
3. エンジンのフューエルコックを「開」の位置にします。



4. チョークレバーを引っ張り、「全閉（N）」の位置にします。（ガソリンエンジン車のみ）

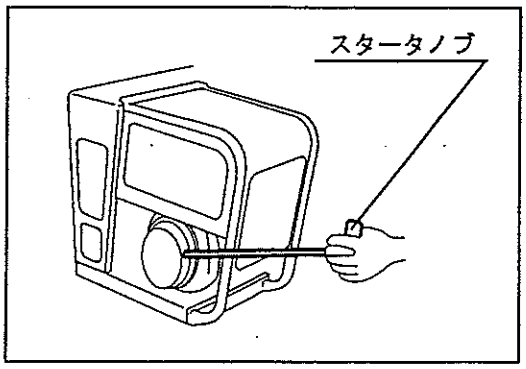
注　記

エンジンが暖まっている時は、チョークレバーを引っ張る必要はありません。



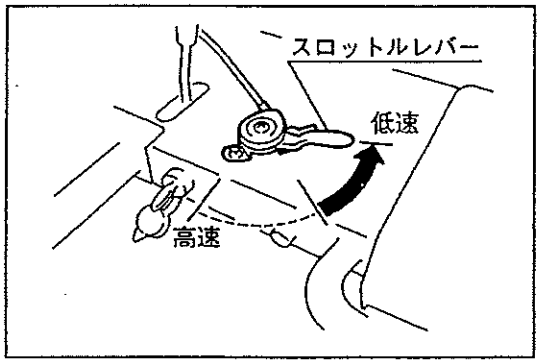
5. 本体のスロットルレバーを「低速」と「高速」の中間位置にします。（ガソリンエンジン車）

本体のスロットルレバーを「高速」の位置にします。（ディーゼルエンジン車）

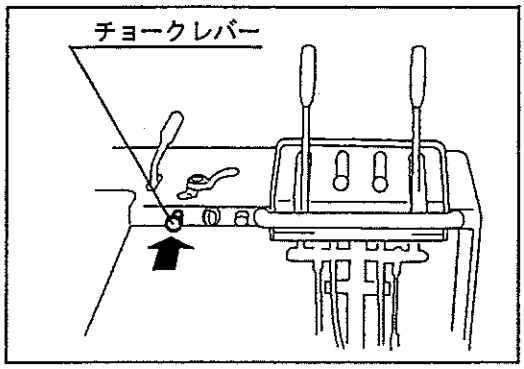


（リコイルスタータ式ガソリン車）

6. スタータノブを握り、圧縮位置まで軽く引き、この位置から勢いよく引っ張ります。



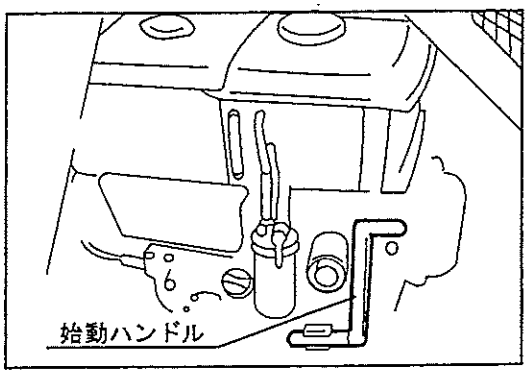
7. エンジンが始動したら、スロットルレバーを「低速」側に動かします。



8. チョークレバーを「全開（▮▮）」の位置に戻し、3～5分間暖機運転をします。

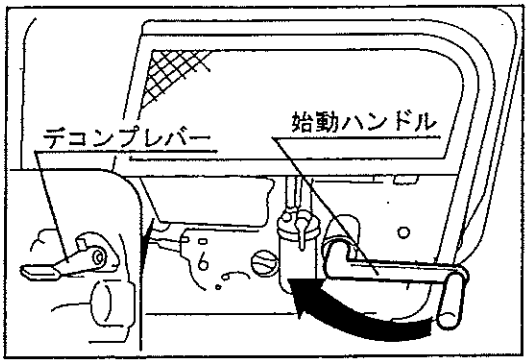
注　記

購入後、最初の一週間（約40～50時間）は、慣らし運転期間として、過負荷をかけないように控えめな運転を行ってください。



(増速ハンドル式ディーゼルエンジン車)

6. 始動ハンドルをエンジン本体より取外します。



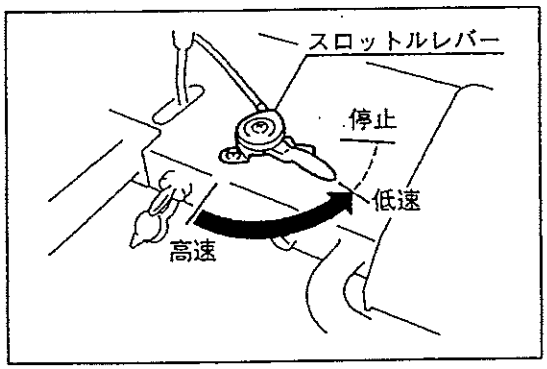
7. 始動ハンドルを図示のように差し込み、少し回してハンドルを下側の圧縮位置（引き上げる位置）にします。反対の位置（上側）にくる場合は、ハンドルをはめ直します。

8. 左手でデコンプレバー（圧縮解除レバー）を引き上げ、ハンドルを抜けないように持ったまま勢いよく回します。

9. 慣性がついたらデコンプレバーを放し、同時にハンドルをさらに力を入れて始動するまで回します。

⚠警　告

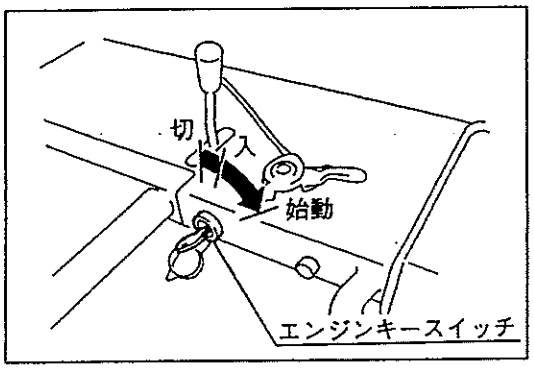
始動時は、絶対にハンドルから手を放さないでください。ハンドルから手を放しますとハンドルが軸と共に回り、大変危険です。ハンドルはエンジンが始動し始めると自然に抜けます。



10. エンジンが始動したら、スロットルレバーを「低速」の位置にし、３～５分間暖機運転をします。

注　記

購入後、最初の一週間（約40～50時間）は、慣らし運転期間として、過負荷をかけないように控えめな運転を行ってください。



(セルフスタータ式ガソリンエンジン車)

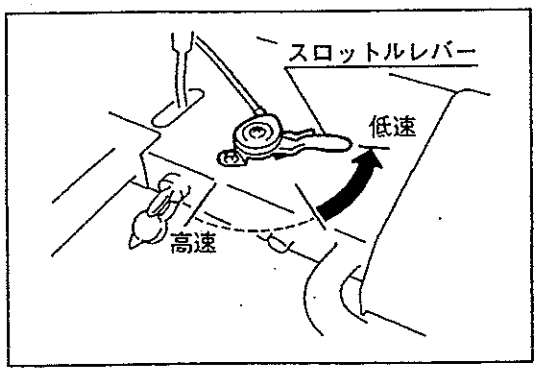
6. エンジンキーを差し込み、「始動」位置まで回します。

注　記

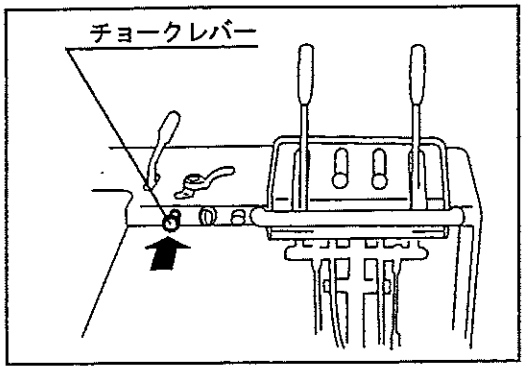
- 始動しない場合、5秒以上連続してセルモータを回さないでください。エンジンキーを「入」位置に戻し、10秒位休んでから再始動するようにしてください。
- 頻繁なセル始動はなるべく避け、セルモータを起動したら、しばらく連続運転して、バッテリを充電するようにしてください。
- セルフスタートで始動できない（バッテリ上がりなど）場合には、エンジンキーを「入」の位置にして、スタータノブを使ってエンジンを始動してください。(☞14ページ)

⚠注　意

エンジン回転中は、エンジンキーを「始動」位置に絶対に回さないでください。セルモータの破損の原因になります。



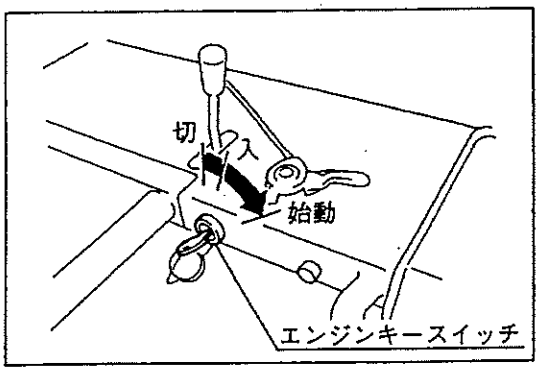
7. エンジンが始動したら、スロットルレバーを「低速」側に動かします。



8. チョークレバーを「全開（⫼）」の位置に戻し、3～5分間暖機運転をします。

注　記

購入後、最初の一週間（約40～50時間）は、慣らし運転期間として、過負荷をかけないように控えめな運転を行ってください。



（セルフスタータ式ディーゼルエンジン車）

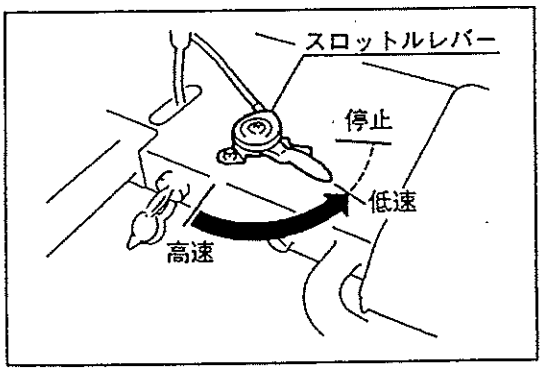
6. エンジンキーを差し込み、「始動」の位置まで回します。

注　記

- 始動しない場合、5秒以上連続してセルモータを回さないでください。エンジンキーを「入」位置に戻し、10秒位休んでから再始動するようにしてください。
- 頻繁なセル始動はなるべく避け、セルモータを起動したら、しばらく連続運転して、バッテリを充電するようにしてください。
- セルフスタートで始動できない（バッテリ上がりなど）場合には、エンジンキーを「入」の位置にして、始動ハンドルを使ってエンジンを始動してください。（☞15ページ）

⚠注　意

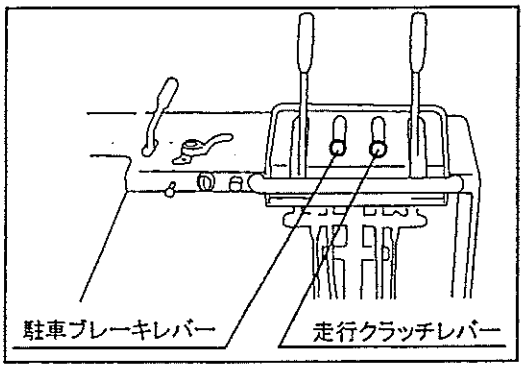
エンジン回転中は、エンジンキーを「始動」位置に絶対に回さないでください。セルモータの破損の原因になります。



7. エンジンが始動したら、スロットルレバーを「低速」の位置にし、3～5分間暖機運転をします。

注　記

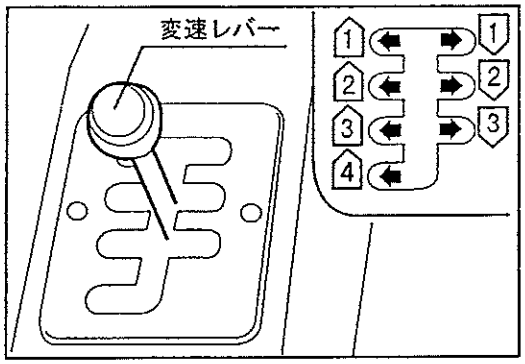
購入後、最初の一週間（約40～50時間）は、慣らし運転期間として、過負荷をかけないように控えめな運転を行ってください。



6.3 運転のしかた

1. 車両の前後、左右の安全を確認します。

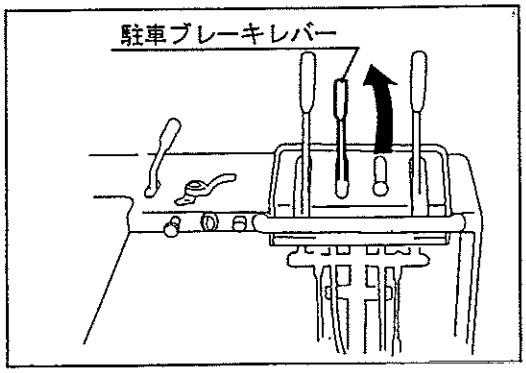
2. 走行クラッチレバーが「切」、駐車ブレーキレバーが「入」の位置にあることを確認します。



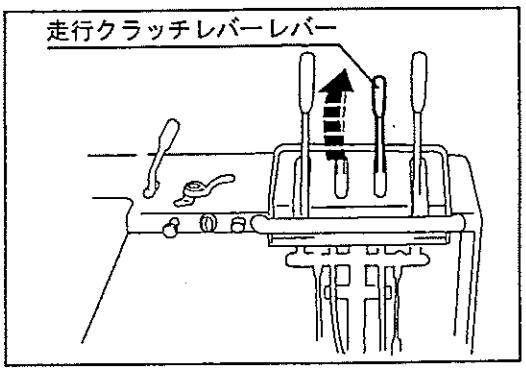
3. 変速レバーを前進（Ｆ１速～Ｆ４速）または後進（Ｒ１速～Ｒ３速）の任意の変速位置に確実に入れます。（各変速位置での走行スピードについては、第５章の「製品仕様」を参照してください。☞10ページ）

⚠危　険

変速（ギヤチェンジ）が不十分な場合、ギヤ抜けのおそれがあり大変危険です。ギヤが入りにくいときは、無理に入れずに、走行クラッチレバーを「入（発進）」側へ少し動かし、確実にギヤチェンジを行ってください。



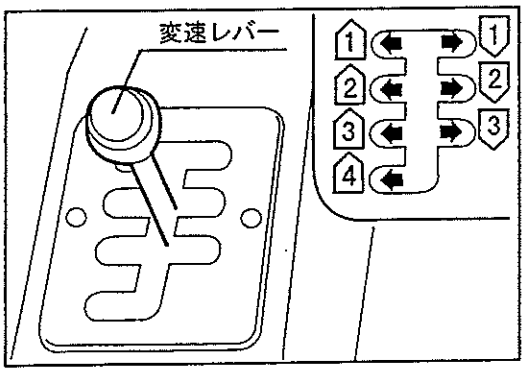
4. 駐車ブレーキレバーを「切」の位置にします。



5. 走行クラッチレバーを「入」の位置に徐々に倒し、発進させます。

注　記

走行クラッチレバーを急に倒すと、エンストする場合があります。



(変速する場合)

6. 車体を停止させた後、18ページ1～3の操作を行います。(車体の停止のしかたについては、6.4『停止のしかた』を参照してください。☞20ページ)

⚠注 意

走行中の変速はできません。必ず車体を停止させてから変速操作を行ってください。

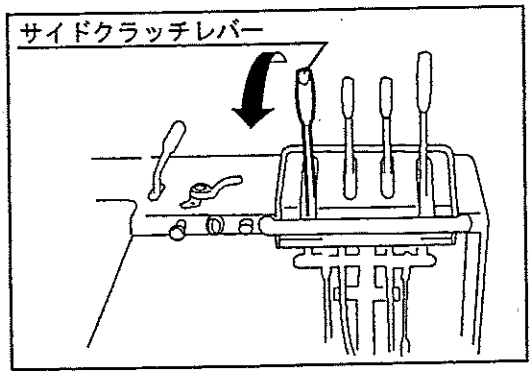
(旋回する場合)

⚠危 険

急旋回すると、車体が転倒するおそれがあります。

⚠注 意

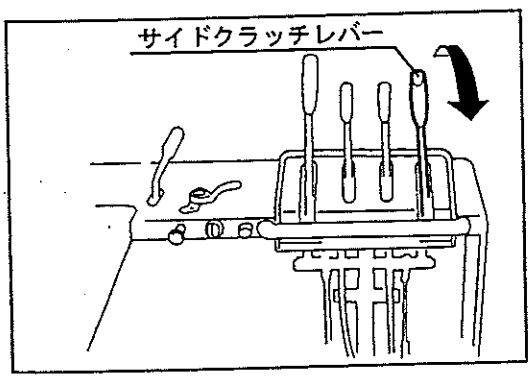
- **左右両側のサイドクラッチレバーを同時に操作すると急停車しますので、緊急の場合を除き、左右のサイドクラッチレバーを同時に操作しないでください。**
- **急斜面では、サイドクラッチの引き具合で、車体がレバーを引いた方向と逆に挙動することがありますので、注意してください。**



左に旋回する場合：

7. 左側のサイドクラッチレバーを手前に倒します。

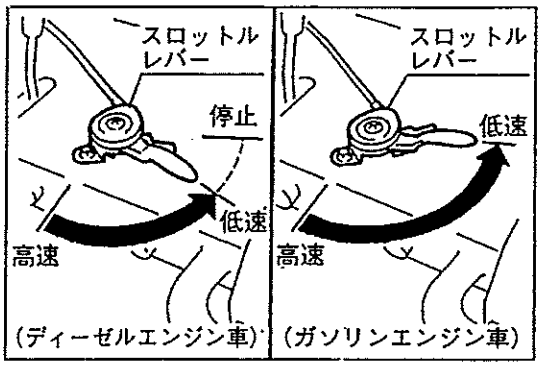
旋回半径は、サイドクラッチレバーを引く力(量)により、任意に変化させることができます。軽く引けば緩旋回、強く引けば急旋回になります。



右に旋回する場合：

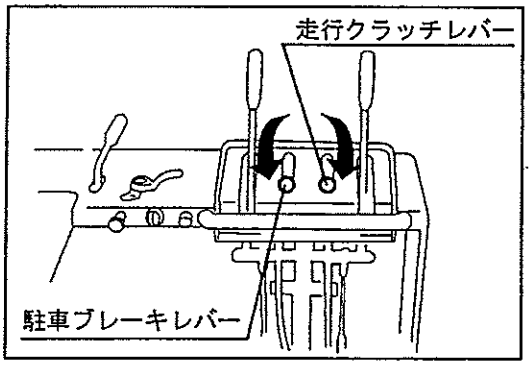
8. 右側のサイドクラッチレバーを手前に倒します。

旋回半径は、サイドクラッチレバーを引く力(量)により、任意に変化させることができます。軽く引けば緩旋回、強く引けば急旋回になります。



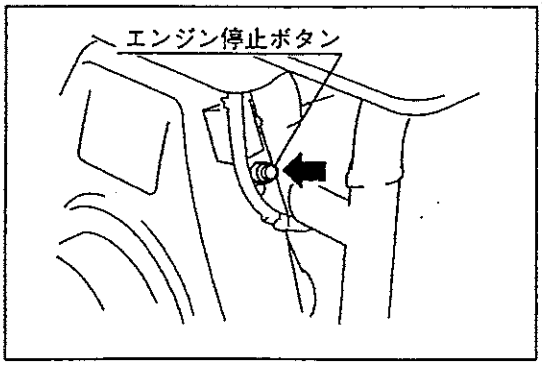
6.4 停止のしかた

1. スロットルレバーを「低速」の位置にし、車体を減速させます。



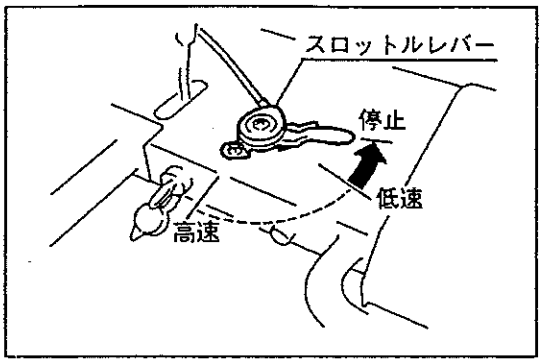
2. 走行クラッチレバーを「切」の位置にします。
3. 駐車ブレーキレバーを「入」の位置にします。

> **⚠ 注 意**
>
> **緊急の場合は、走行クラッチレバーと駐車ブレーキレバーを同時に、または左右のサイドクラッチレバーを同時に手前へ引いてください。車体は急停車します。なお、傾斜地では車体が浮き上がることがありますので、十分注意してください。**



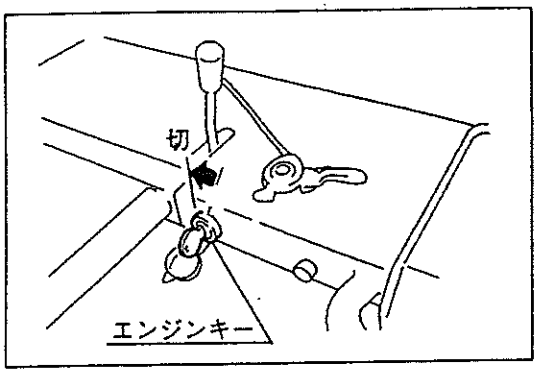
(リコイルスタータ式ガソリンエンジン車)

4. エンジン停止ボタンを押し、エンジンを完全に停止させます。
5. フューエルコックを閉じます。



(増速ハンドル式ディーゼルエンジン車)

4. スロットルレバーを「停止」の位置にし、エンジンを停止させます。
5. フューエルコックを閉じます。



(セルフスタータ式ガソリンエンジン車)

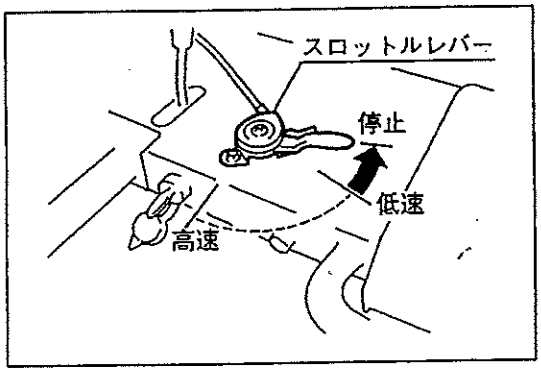
4. エンジンキーを「切」の位置に回し、エンジンを停止させます。

5. キーを抜き取ります。

注　記

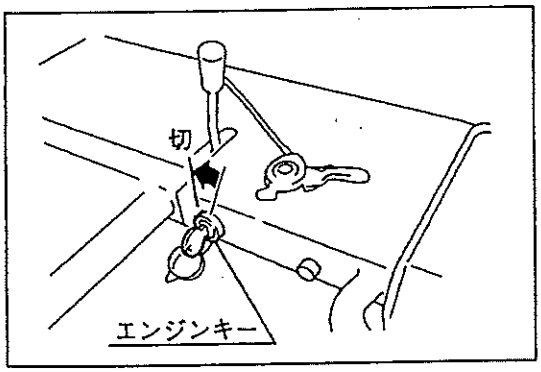
エンジンキーを「入」のままにしておくと、バッテリから各回路に電流が流れ続け、バッテリの上がりの原因になります。

6. フューエルコックを閉じます。



(セルフスタータ式ディーゼルエンジン車)

4. スロットルレバーを「停止」の位置にし、エンジンを停止させます。

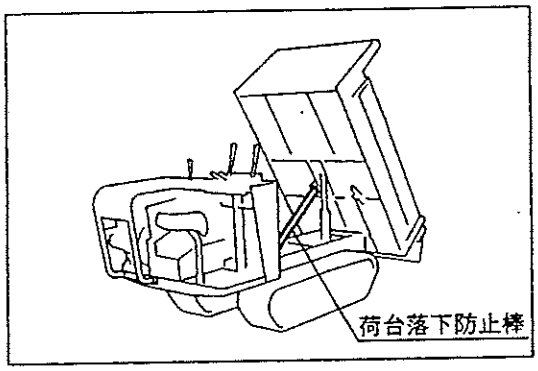


5. エンジンキーを「切」の位置に回し、キーを抜き取ります。

注　記

エンジンキーを「入」のままにしておくと、バッテリから各回路に電流が流れ続け、バッテリの上がりの原因になります。

6. フューエルコックを閉じます。



6.5 ダンプ操作

⚠危 険

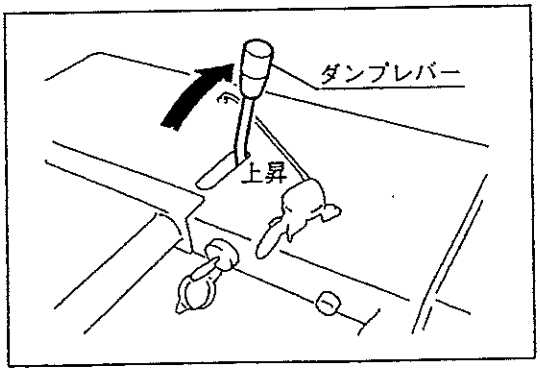
- 荷台を上昇したまま荷台下等の点検を行なう場合は、危険防止のため、本体に備え付けの荷台落下防止棒を使用して、荷台を確実に支えてください。
- ダンプ操作時は周囲の安全確認を必ず行ってください。

⚠警 告

急傾斜地でのダンプ操作は、車体が不安定になり、非常に危険です。やむを得ず坂道でのダンプ操作を行なう場合は、走行部にりん木等を敷き、車体を水平にして使用してください。

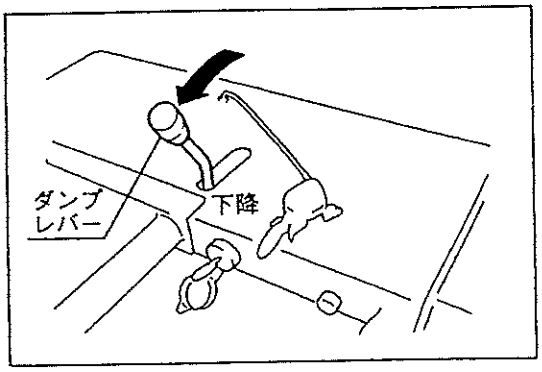
⚠注 意

- 荷を積載したまま荷台を下降させる場合、車体に衝撃を与えないよう、エンジン回転を低くして荷台をゆっくり下げてください。



(荷台を上昇させる場合)

1. スロットルレバーを「高（高速)」の位置にし、エンジン回転数を上昇させます。
2. ダンプレバーを「上昇」の位置に倒します。
3. 荷台が上限まで上がるとリリーフ作動音（ヒュー音）がしますので、ダンプレバーをすばやく「中立」の位置に戻します。



(上昇した荷台を下降させる場合)

1. ダンプレバーを「下降」の位置に倒します。
2. 荷台が下限まで下がるとリリーフ作動音（ヒュー音）がしますので、ダンプレバーをすばやく「中立」の位置に戻します。

7. 保守（お手入れ）

7.1 定期点検表

点検や整備を怠ると事故の原因となることがあります。製品の正常な機能を維持し、いつも安全な状態で運転または作業をするために、下表を参考に点検を行ってください。
年次点検は１年に１回、月例点検は１ヶ月に１回、始業点検は作業を開始する前に毎日、点検を行なうようにしてください。

注　記

下表の点検内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。ユーザー自身で実施できない点検内容については、販売店（当社センター）へ依頼してください。

項目			点検内容		点検時期 始業	月例	年次	備考
原動機	本体	始動性	• エンジンのかかり具合および異音の有無を調べる。	始動が容易で、異音がないこと。	○	○	○	
		回転の状態	• アイドリング時および無負荷最高回転時の回転数を調べる。また、回転が円滑に続くか調べる。	正規の回転数であること。回転が円滑に続くこと。		○	○	販売店へ点検を依頼してください。
			• エンジンを加速した時、スロットルレバーの引っ掛かり、エンジン停止およびノッキングの有無を調べる。	引っ掛かり、エンジン停止またはノッキングがないこと。	○	○	○	
		排気の状態	• エンジンを十分に暖機した状態で、アイドリング時から高速回転時まで排気色および排気音の異常の有無を調べる。	排気色および排気音が正常であること。	○	○	○	
			• 排気管、マフラ等からのガス漏れの有無を調べる。	ガス漏れのないこと。		○	○	
		エアクリーナ	• ケースの亀裂、変形およびふた部、接続管の緩みの有無を調べる。	ケースの亀裂、変形またはふた、接続管に緩みがないこと。		○	○	
			• エレメントの汚れおよび損傷の有無を調べる。	著しい汚れまたは損傷がないこと。		○	○	清掃／交換：☞33ページ
		締付け	• シリンダヘッドおよびマニホールドの締付け部のボルトおよびナットの緩みの有無を調べる。 ＊これらの部分からガス漏れや水漏れが認められない場合は、この検査を省略してもよい。	緩みがないこと。			○	
		弁隙間	• 弁隙間を調べる。 ＊弁隙間の異常による異音がなく、エンジンが円滑に回転している場合は、この検査を省略してもよい。	正規の弁隙間であること。			○	販売店へ点検を依頼してください。

項目			点検内容		点検時期 始業	月例	年次	備考
原動機	本体	圧縮圧力	• 圧縮圧力を調べる。 ＊アイドリング時および加速時の回転状態ならびに排気の状態に異常がなければこの検査を省略してもよい。	正規の圧縮圧力であること。			○	販売店へ点検を依頼してください。
		エンジンマウント	• エンジンベースの亀裂および変形の有無を調べる。	亀裂または変形がないこと。	○	○	○	
			• 取付けボルトおよびナットの緩みおよび脱落の有無を調べる。	緩みまたは脱落がないこと。	○	○	○	
			• 防振ゴムの損傷および劣化の有無を調べる。	損傷または劣化がないこと。	○	○	○	
	潤滑装置		• 油量および油の汚れを調べる。	油量が適正で著しい汚れがないこと。	○	○	○	点検／交換：☞28ページ
			• ヘッドカバー、オイルパン、パイプ等からの油漏れの有無を調べる。	著しい油漏れがないこと。	○	○	○	
			• オイルフィルタの汚れおよび損傷の有無を調べる。	著しい汚れまたは損傷がないこと。			○	点検／清掃：☞35ページ
	燃料装置		• 燃料タンク、噴射ポンプ、ホース、パイプ等からの燃料漏れの有無を調べる。	燃料漏れのないこと。	○	○	○	
			• 燃料ホースの損傷および劣化の有無を調べる。	損傷または劣化がないこと。	○	○	○	
			• 燃料フィルタエレメントの汚れおよび詰まりの有無を調べる。	著しい汚れまたは詰まりがないこと。		○	○	清掃：☞35ページ
			• 噴射ノズルの噴射圧力および噴霧状態の異常の有無を調べる。 ＊アイドリング時および加速時の回転状態ならびに排気の状態に異常がなければ、この検査を省略してもよい。	正規の噴射圧力であり、噴霧が正常であること。			○	販売店へ点検を依頼してください。
	冷却装置（ディーゼルエンジン車）		• 冷却水の量および汚れの有無を調べる。	水量が適正で著しい汚れがないこと。	○	○	○	点検／補給：☞32ページ
			• ラジエータ、エンジン本体、ウォーターポンプ、ホース等からの水漏れの有無およびラジエータのフィン目詰まりの有無を調べる。	水漏れまたは目詰まりがないこと。	○	○	○	点検／清掃：☞34ページ
			• ホースの損傷および劣化の有無を調べる。	損傷または劣化がないこと。	○	○	○	
			• ラジエータキャップのバルブ機能の適否を調べる。	正常に機能すること。			○	
			• ラジエータキャップのバルブシート面の損傷の有無を調べる。	損傷がないこと。			○	
			• ファンベルトの張りを調べる。	基準値以内であること。			○	点検／調整：☞36ページ
			• ベルトの摩耗および損傷の有無を調べる。	著しい摩耗または損傷がないこと。			○	
			• 冷却ファン、カバー、ダクト等の亀裂、損傷および変形の有無を調べる。	亀裂、損傷または著しい変形がないこと。			○	
			• 冷却ファン、カバー等の各取付けボルトおよびナットの緩みの有無を調べる。	緩みのないこと。			○	

項目			点検内容		点検時期 始業	点検時期 月例	点検時期 年次	備考
原動機	電気装置	点火プラグ(ガソリン車のみ)	• 電極の消耗状態、カーボンの堆積の有無を調べる。	消耗がなく、カーボンの堆積がないこと。			○	点検／清掃：☞33ページ
		バッテリ	• 電解液の量が規定の範囲にあるか調べる。	規定範囲にあること。		○	○	点検／補給：☞32ページ
			• 端子部の緩みおよび腐食の有無を調べる。	緩みまたは著しい腐食がないこと。		○	○	
		配線	• 接続部の緩みの有無を調べる。	緩みがないこと。		○	○	
			• 配線の損傷の有無を調べる。	損傷がないこと。		○	○	
動力伝達装置	走行クラッチ		• アイドリング状態でクラッチを切り、異音の有無を調べると共にトランスミッションを変速しクラッチの切れ具合を調べる。	異音がなくクラッチが完全に切れること。	○	○	○	調整：☞37ページ
			• クラッチを徐々に接続して発進の具合を調べる。	滑りがなく接続が円滑であること。	○	○	○	調整：☞37ページ
	Vベルト		• 外観の損傷および汚れの有無を調べる。	損傷がなく油脂類の付着がないこと。		○	○	点検：☞36ページ
	トランスミッション		• 変速レバーを前進および後進状態にして駆動し、作動状態ならびにギヤ抜け、異音および異常発熱の有無を調べる。	正常に作動し、ギヤ抜け、異音または異常発熱がないこと。	○	○	○	
			• ケース内の油量を調べる。	油量が適正であること。		○	○	点検／交換：☞29ページ
			• 油の汚れを調べる。	著しい汚れがないこと。		○	○	点検／交換：☞29ページ
			• ケース周辺からの油漏れの有無を調べる。	油漏れのないこと。		○	○	
	サイドクラッチ		• 走行してサイドクラッチレバーを操作した時、異音がなく確実に作動するか調べる。	異音がなく確実に作動すること。	○	○	○	
			• レバーを操作し、遊びおよび引きしろの適否を調べる。	遊びおよび引きしろが適正であること。	○	○	○	調整：☞38ページ
			• レバーを操作し、ロッド、リンク、軸受部および接続部のガタならびに各ピンの錆付きの有無を調べる。	ガタまたは錆付きがないこと。		○	○	
走行装置	スプロケット 遊動輪 転輪 支持転輪		• 亀裂、変形および摩耗の有無を調べる。	亀裂、変形または著しい摩耗がないこと。	○	○	○	
			• 走行して軸部の異音および異常発熱の有無を調べる。	異音または異常発熱がないこと。	○	○	○	
			• 取付けボルトおよびナットの緩みおよび脱落の有無を調べる。	緩みまたは脱落がないこと。	○	○	○	
			• 軸部周辺からの油漏れの有無を調べる。	油漏れがないこと。	○	○	○	
	クローラ		• スチールコードの切断および損傷の有無を調べる。	切断または著しい損傷がないこと。	○	○	○	
			• ゴムの欠け、劣化および摩耗の有無を調べる。	著しい欠け、劣化または摩耗がないこと。	○	○	○	
			• 芯金の脱落および折れの有無を調べる。	芯金の脱落がないこと。	○	○	○	
			• クローラの張り具合を調べる。	緩みまたは張り過ぎがないこと。	○	○	○	調整：☞38ページ

7 保守（お手入れ）

項目		点検内容		点検時期 始業	月例	年次	備考
走行装置	クローラ張りボルト	• 張りボルトの変形、腐食の有無を調べる。	変形、腐食がないこと。		○	○	
	車体、カバー	• 車体およびカバーの亀裂、変形およびボルト、ナットの緩み、脱落の有無を調べる。	亀裂、変形およびボルト、ナットの緩み、脱落のないこと。		○	○	
制動装置	駐車ブレーキ	• 機械を走行させてブレーキの効き具合を調べる。	効き具合が適正であること。	○	○	○	調整：☞37ページ
		• 機械を無負荷状態で1/5勾配の床面で停止の状態に保持できるかを調べる。	効き具合が適正であること。	○	○	○	調整：☞37ページ
		• レバーを反復させて引き力および戻り具合を調べる。	引き力または戻り具合が正常であること。	○	○	○	
	ロッド、リンク及びワイヤ類	• ロッド、リンクおよびワイヤ類の損傷ならびに取付け部の緩みの有無を調べる。	損傷または緩みがないこと。	○	○	○	
		• ブレーキを反復作動させ、連結部の緩みおよびガタならびに割ピンの欠損の有無を調べる。	連結部の緩みまたはガタ、割ピンの欠損がないこと。	○	○	○	
荷役装置	荷台（前ドアおよび側板を含む）	• 荷台の上下ならびに前ドアの開閉が円滑に行えるかを調べる。	円滑に作動すること。	○	○	○	
		• ダンプ時に前ドアが自動的に開放し、下降時にロックするかを調べる。	開放が滑らかで、確実にロックできること。	○	○	○	
		• 各部の亀裂、変形および摩耗の有無を調べる。	各部の亀裂、変形および摩耗がないこと。	○	○	○	
		• 取付けボルトの緩みおよび脱落の有無を調べる。	ボルトの緩み脱落がないこと。	○	○	○	
		• 荷台を上下させてフレームと荷台との取付けピンおよびダンプシリンダ取付けピン等のガタを調べる。	各ピン部に著しいガタがないこと。		○	○	
油圧装置	パワーパッケージ	• パッケージ本体からの油漏れの有無を調べる。	油漏れがないこと。		○	○	
		• 機械を水平な場所に置き、油量を調べる。	油量が適正であること。		○	○	点検／補給：☞30ページ
		• 油の汚れの有無を調べる。	油に著しい汚れがないこと。		○	○	点検／補給：☞30ページ
		• ブリーザの目詰まりの有無を調べる。	目詰まりがないこと。			○	
		• ブラケットの取付け状態の適否ならびにボルトおよびナットの緩み、脱落の有無を調べる。	取付け状態が適正で、ボルトおよびナットの緩み、脱落がないこと。		○	○	
		• ホースとの継手部ならびにシール部からの油漏れの有無を調べる。	油漏れのないこと。		○	○	
		• パッケージを作動させ、無負荷および負荷状態における異常振動、異音、異常発熱の有無を調べる。	異常振動、異音、異常発熱がないこと。		○	○	
		• パッケージに負荷をかけて、負荷時の吐出量および吐出圧力を調べる。 ＊前項の検査で異常がなければこの検査は省略してもよい。	基準値内であること。			○	販売店へ点検を依頼してください。

7.2 給油、注油一覧表

項目	補給(交換)時期	推奨品		容量	参照ページ
燃料	随時	ガソリン車	ガソリン	6.0ℓ	☞ 11ページ
		ディーゼル車	軽油	7.5ℓ	
エンジンオイル	補給：毎日点検し、不足時に補給 交換： 初回：20時間目 2回目以降：50時間毎(毎週)	ガソリン車	SAE 10W-30 (SC級以上)	1.2ℓ	☞ 28ページ
		ディーゼル車	SAE 10W-30 (CC級以上)	2.3ℓ	
トランスミッションオイル	初回：50時間目 2回目以降：500時間毎	ギヤオイル(API分類 GL4または5 SAE分類 #80)		4.0ℓ	☞ 29ページ
パワーパッケージオイル(油圧ダンプ用)	100時間毎に点検し、不足時に補給	タービン油(ISO：VG32 JIS：#90)		1.7ℓ	☞ 30ページ
転輪、支持転輪、遊動輪	6ヶ月毎 ＊購入後、半年は給脂不要	シャーシグリース		—	☞ 31ページ
各摺動部	6ヶ月毎 ＊購入後、半年は注油不要	ギヤオイル(API分類 GL4または5 SAE分類 #80)		—	☞ 31ページ
エンジン冷却水(ディーゼル車)	毎月点検し、不足時に補給	不凍液混合水		1.3ℓ	☞ 32ページ
バッテリ液(セルフスタータ式)	毎月点検し、不足時に補給	蒸留水		—	☞ 32ページ

7.3 消耗品(交換部品)一覧表

項目		部品番号	交換時期	個数	参照ページ
エアクリーナエレメント	ガソリン	36460055100	1年毎(または6回清掃後)	1	☞ 33ページ
	ディーゼル	36110005600			
フューエルコック(フューエルフィルタ)	ガソリン	36460055200	100時間毎に点検し、必要に応じて交換	1	☞ 35ページ
	ディーゼル	36110005700			
オイルフィルタ	ディーゼル車のみ	36110005800	100時間毎に点検し、必要に応じて交換	1	☞ 35ページ
Vベルト(走行)	ガソリン	08521300038	不具合があれば交換	1	交換については販売店へ依頼してください
	ディーゼル	08521300037			
Vベルト(油圧)	ガソリン	08521300032	不具合があれば交換	1	
	ディーゼル	08521300037			
シュー&ライニング	——	73054005000	不具合があれば交換	2(セットで交換)	
クローラ	——	36112012000	不具合があれば交換	2(左右各1)	
油圧ホース	——	36365037000	2年毎(又は不具合があれば交換)	2	
バッテリ	ガソリン	34070501000	不具合があれば交換	1	☞ 41ページ
	ディーゼル	37060501000			
上記以外で点検上交換が必要と思われる部品	——	——	販売店(当社センター)へお問い合わせください。	——	——

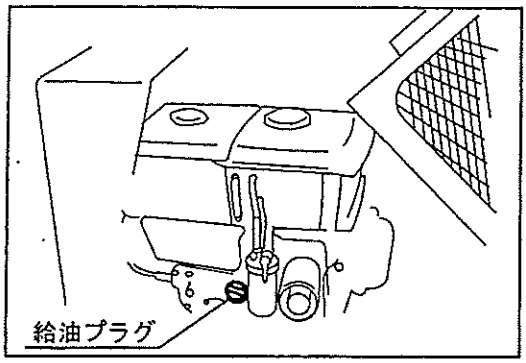
注記

油圧ホースなどのゴム製品は使わなくても老化する消耗品です。2年ごと、又は傷んだときには、新品と交換して下さい。

7.4 給油

注　記

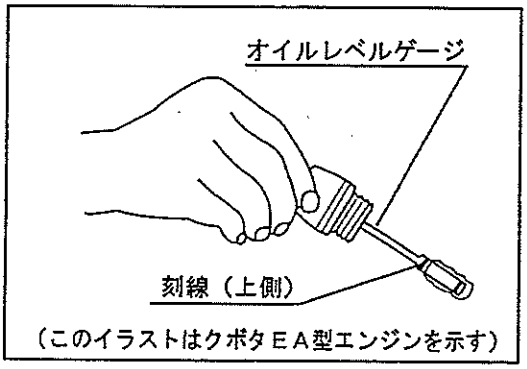
給油がおろそかになると、回転や作動が円滑に行われないばかりでなく、故障の原因となり、機械の寿命を短くしますので、常に指定の良質オイルを過不足なく給油してください。



7.4.1 エンジンオイル

点検／補給

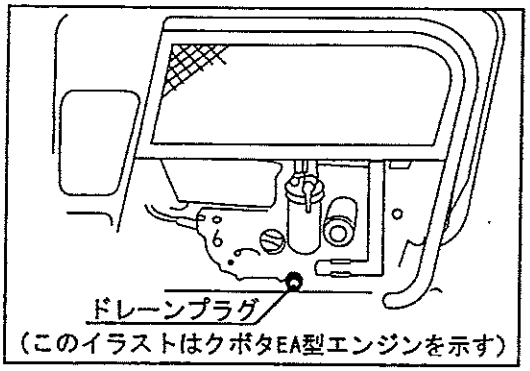
1. エンジンオイルの給油プラグ（オイルレベルゲージ付き）を取外します。



（このイラストはクボタＥＡ型エンジンを示す）

2. エンジンオイル量および汚れを目視点検し、規定量にない場合または汚れがひどい場合は、補給または交換します。

使用オイル：☞27ページ
エンジンオイル量：
オイルレベルゲージの上側の刻線まで
（クボタEA型エンジンの場合：給油プラグをねじ込んだ状態で点検、ロビンEH型エンジンの場合：給油プラグをねじ込まないで点検）



（このイラストはクボタEA型エンジンを示す）

交換

1. オイルを抜取る適当な受け皿を用意します。

2. オイルドレーンプラグを取外し、クランクケース内のオイルを排出します。

⚠注　意

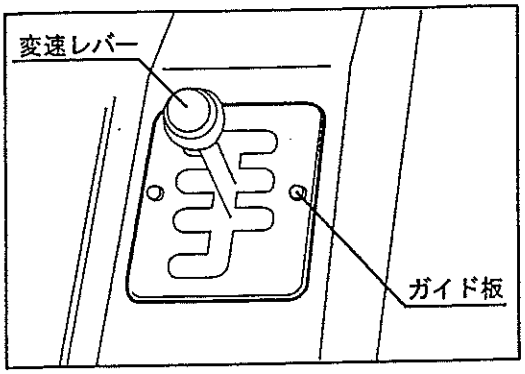
オイル高温時には火傷のおそれがあります。

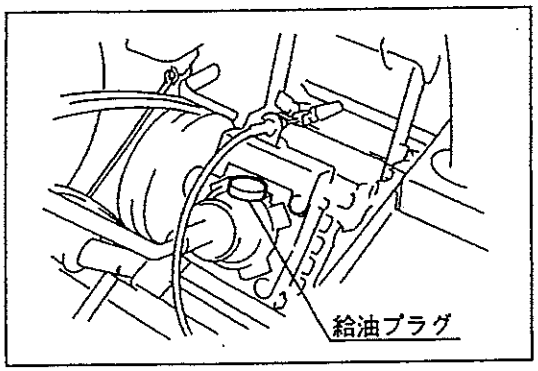
注　記

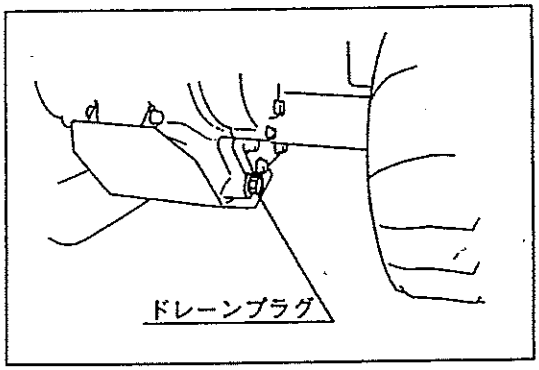
廃油は適切な処理をしてください。

3. オイルドレーンプラグを取付けます。

4. 給油プラグを開け、指定のオイルを注入します。（上記「点検／補給」を参照）







7.4.2 トランスミッションオイル

点検／補給

1. 変速レバーのノブを取外します。
2. 図示ガイド板を取外します。
3. 給油プラグを取外します。
4. オイル量および汚れについて目視点検し、オイルが不足している場合および汚れがひどい場合は、補給または交換します。

   使用オイル：☞27ページ
5. 給油プラグを取付けます。
6. カバーおよび変速レバーのノブを取付けます。

交換

1. オイルを抜取る適当な受け皿を用意します。
2. ドレーンプラグを取外し、オイルを抜取ります。

   参考：
   給油プラグを取外すと、オイルが抜取りやすくなります。

⚠注　意

オイル高温時には火傷のおそれがあります。

注　記

廃油については適切な処理をしてください。

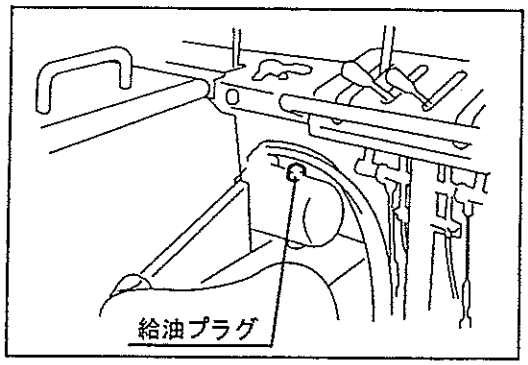
3. ドレーンプラグを取付けます。
4. 給油プラグを開け、指定のオイルを注入します。（上記「点検／補給」を参照）

7.4.3 パワーパッケージオイル（油圧ダンプ用オイル）

点検／補給

注　記

オイルが減るとホースおよびシリンダ内に空気が入り、ダンプの上昇が悪くなりますので、100時間毎にオイルの点検を行ってください。



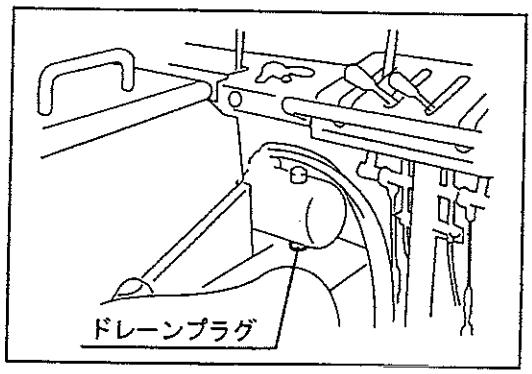
1. 給油プラグを取外します。
2. オイル量を目視点検し、オイルが不足している場合はオイルを補給します。

   使用オイル：☞27ページ

3. 給油プラグを取付けます。
4. エンジンを始動し、オイルを循環させます。

注　記

エンジンを始動し、荷台を上昇させると、最初はエアが入っていますのでノックしますが、2～3回繰り返しますと良くなります。



交換

1. オイルを抜取るための適当な受け皿を用意します。
2. ドレーンプラグを取外します。

注　記

廃油は適切な処理をしてください。

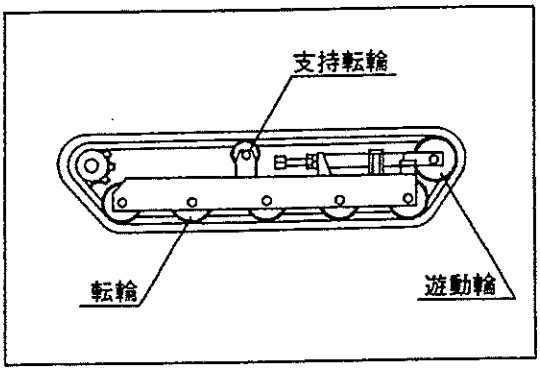
3. ドレーンプラグを取付けます。
4. 給油キャップを開け、オイルを注入します。（上記「点検／補給」を参照）

7.5 給脂・注油

注　記

給脂および注油がおろそかになると、焼き付きや錆付きの原因となり、回転や作動が円滑に行われないおそれがありますので、定期的に給脂および注油を行ってください。

7.5.1 転輪、支持転輪、遊動輪

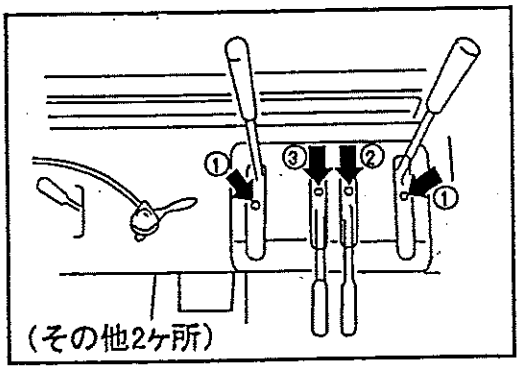


使用グリース：☞27ページ

1. 市販の手動式グリースポンプまたエア式グリースポンプを使用して図示箇所に給脂します。

参考：
手動式のグリースポンプを使用の場合は５～６回突いてください。途中でポンプハンドルが重くなったら、直ちに給脂を中止してください。エア式のグリースポンプを使用の場合は２～３秒で十分です。

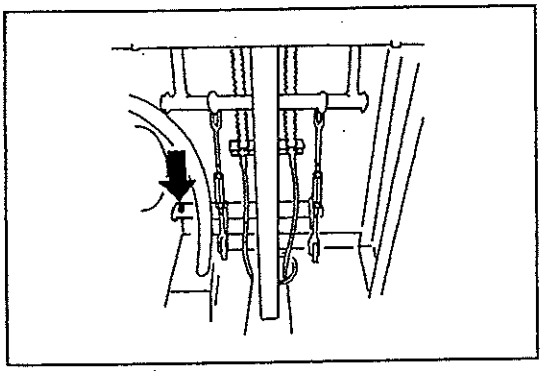
7.5.2 各摺動部



下記箇所に注油します。

使用オイル：☞27ページ

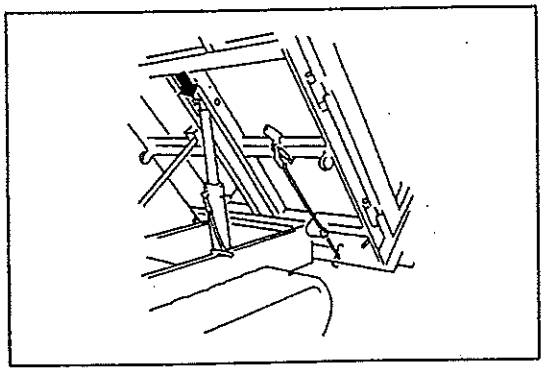
① サイドクラッチレバー支点
② 走行クラッチレバー支点
③ 駐車ブレーキレバー支点
④ 走行クラッチテンションアーム支点
⑤ 油圧テンションアーム支点



下記箇所に給脂します。

使用グリース：☞27ページ

① サイドクラッチ中間支点

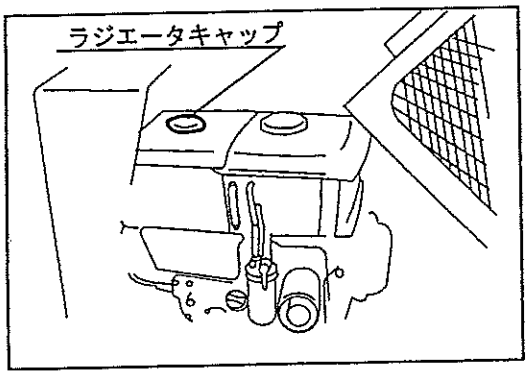


② シリンダ支点

7 保守（お手入れ）

7.6 給水

7.6.1 エンジン冷却水（ディーゼルエンジン車）



点検／補給

> **⚠注 意**
>
> **運転中および停止直後、注水口のキャップを開けると、熱湯が噴出してやけどをすることがありますので、キャップは冷却水が冷めてから（エンジン停止後約10分程度）開けてください。**

1. ラジエータキャップを取外します。
2. エンジン冷却水量を目視点検し、不足している場合は補給します。

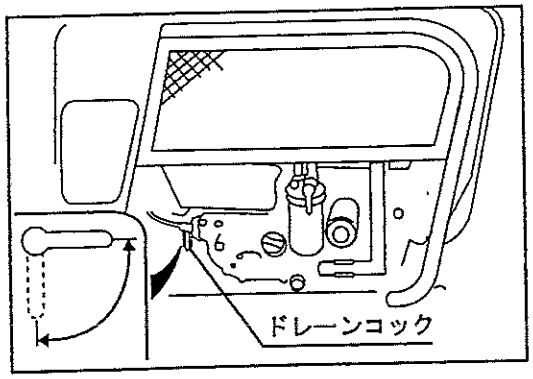
   冷却水量：1.3ℓ

不凍液の混合について（参考）

本製品は工場出荷時に不凍液40％混合済の冷却水を充填しています。
冷却水の凍結を防ぐため、使用する地域の最低気温を元に下表の割合で不凍液を混合してご使用ください。

使用温度	混合割合	使用温度	混合割合
-10℃	30%	-30℃	50%
-15℃	35%	-35℃	55%
-20℃	40%	-40℃	60%
-25℃	45%		

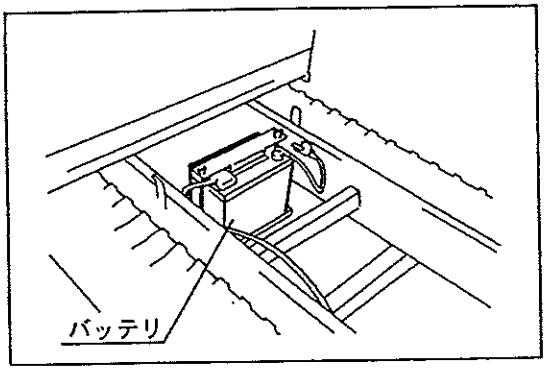
※使用温度は最低気温より５℃低い値を示す。



交換

1. 冷却水を抜取るための適当な容器を用意します。
2. ラジエータ下部のドレーンコックを「閉」から「開」の位置にします。
3. 冷却水を抜取ります。
4. ドレーンコックを「開」から「閉」にし、冷却水を補給します。

7.6.2 バッテリ液（セルフスタータ式）



点検／補給

1. 荷台を上昇させます。（☞22ページ）
2. バッテリ液の量を目視点検し、必要な場合はバッテリ液を補給します。

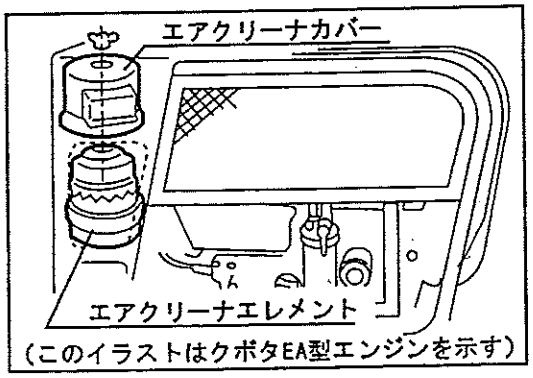
   バッテリ液量：基準線（上および下）の間
   バッテリ液：蒸留水

7.7 清掃

7.7.1 エアクリーナエレメント

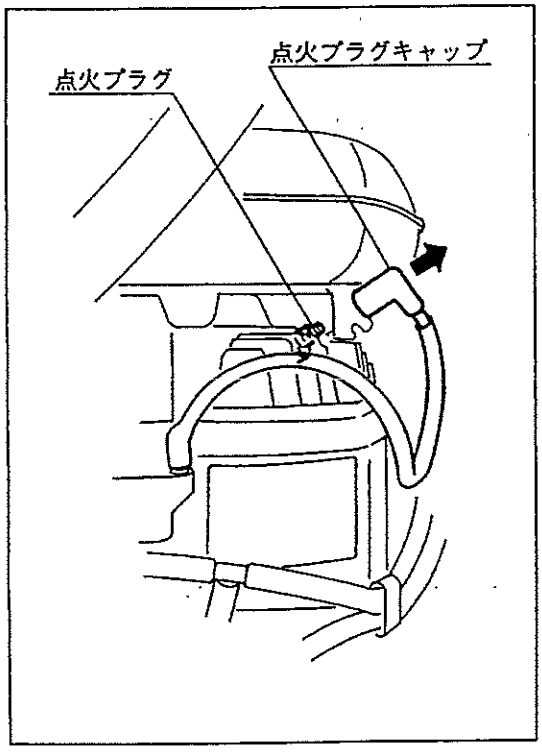
注　記

- エアクリーナエレメントの汚れがひどくなると、エンジンの始動不良、出力不足、エンジンの寿命低下を引き起こすため、定期的（50時間運転毎）に清掃するよう心掛けてください。
- エアクリーナエレメントはエンジンの種類によって乾式、半湿式、オイルバス式などのタイプがあります。清掃方法は各タイプで異なりますので、付属の「エンジン取扱説明書」を参照して、正しく清掃を行ってください。



（このイラストはクボタEA型エンジンを示す）

清掃／交換
1. エアクリーナカバーを取外します。
2. エアクリーナエレメントを取外します。
3. 付属の「エンジン取扱説明書」を参照して、エアクリーナエレメントを清掃します。



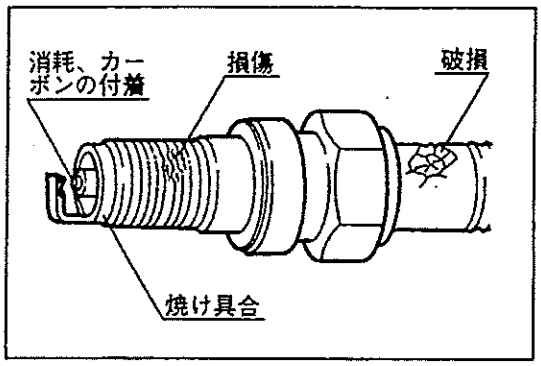
7.7.2 点火プラグ（ガソリンエンジン車）

点検
1. 点火プラグキャップを取外します。

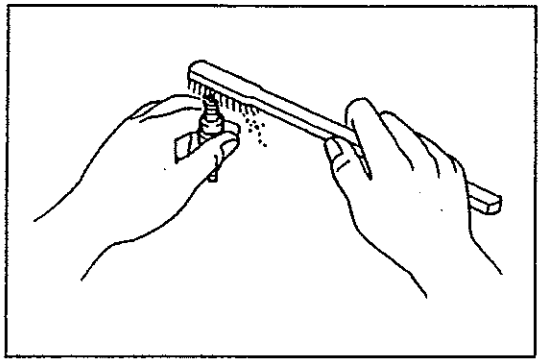
注　記

点火プラグキャップを取外すときは、コードを引っ張らず、必ずキャップを持って、取外してください。

2. プラグレンチを使用して、点火プラグを取外します。

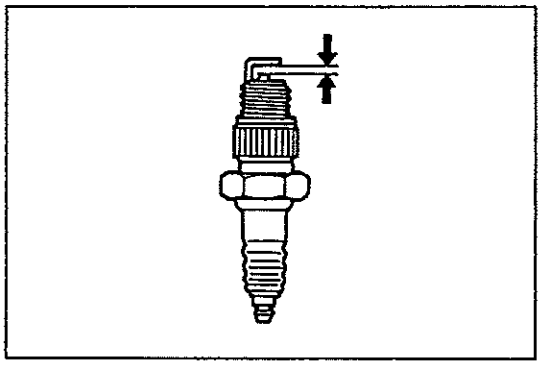


4. 次の点検を行い、不具合があれば清掃または交換します。（点火プラグの品番：☞9ページ）
   - 絶縁体破損の有無
   - 電極の消耗状況
   - カーボンの堆積
   - ガスケットの損傷、破損
   - 火花部碍子の焼け具合



清掃

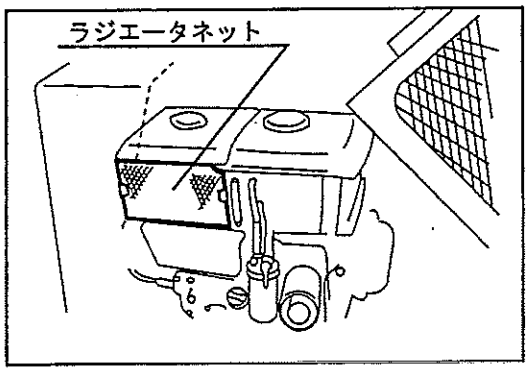
1. ワイヤ・ブラシ、プラグ・クリーナで点火プラグを清掃します。



2. 電極（火花）すき間が下記の値になるように、紙ヤスリで磨いて、すき間を調整します。

   標準値： 0.7 mm

3. 点火プラグを取付けます。



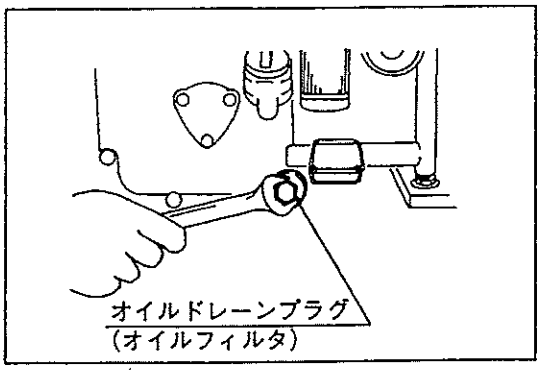
7.7.3 ラジエータ（ディーゼルエンジン車）

1. ラジエータネットを取外します。

2. ラジエータフィンにホコリやゴミが詰まっていないか点検し、詰まっている場合はきれいに取除きます。

注 記

ドライバやへらを使うとラジエータフィンを傷めるので、エアで吹飛ばすか、圧力水を用いて洗い流してください。



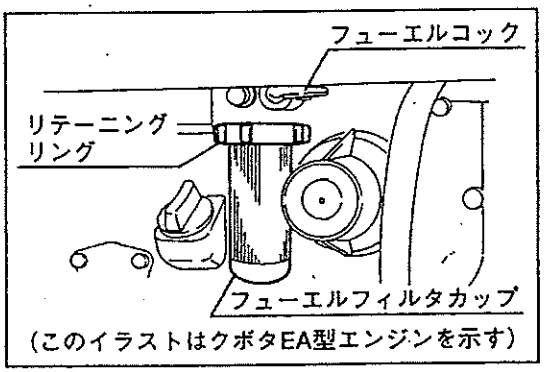
7.7.4 エンジンオイルフィルタ（ディーゼルエンジン車）

1. オイルを抜取るための適当な受け皿を用意します。
2. オイルフィルタ（オイルドレーンプラグ）を取外し、クランクケース内のオイルを全部排出します。

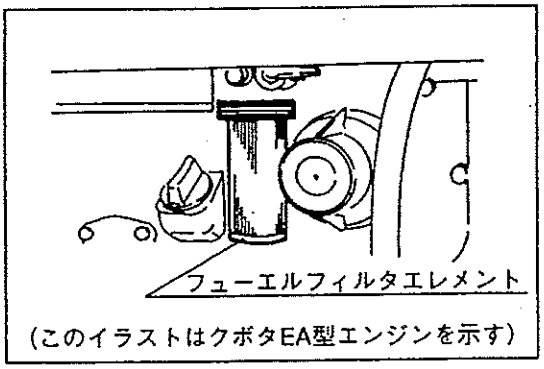
注　記

廃油は適切な処置をしてください。

3. オイルフィルタとクランクケース内を軽油で洗浄します。
4. オイルフィルタ（オイルドレーンプラグ）を取付けます。



（このイラストはクボタEA型エンジンを示す）



（このイラストはクボタEA型エンジンを示す）

7.7.5 フューエルフィルタ

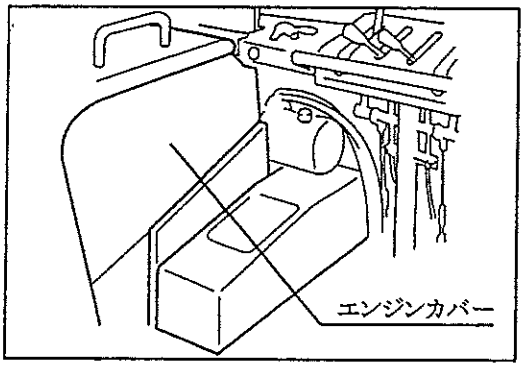
1. フューエルコックが閉まっていることを確認します。
2. フューエルフィルタカップのリテーニングリングを緩めます。
3. フューエルフィルタカップを取外します。
4. フューエルフィルタカップの底にたまっているゴミや水を捨てます。
5. フューエルフィルタエレメントを下方にゆっくりと引張り、取外します。
6. 新しい軽油で洗浄します。

注　記

ロビンEH型エンジンのフューエルフィルタの清掃については、付属の「エンジン取扱説明書」を参照してください。

7.8 調整

7.8.1 冷却ファンベルトの張り (ディーゼルエンジン車)

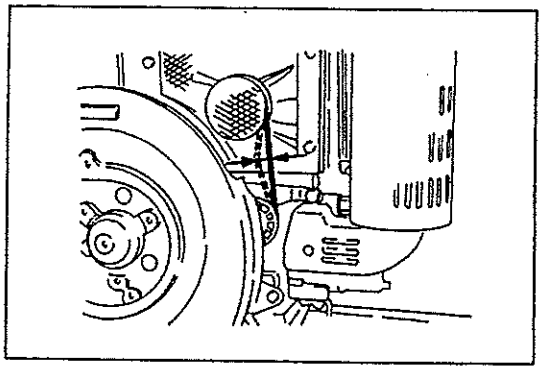


注 記

ベルトの張りが弱いと、ベルトがスリップし、エンジンの冷却能力が低下するだけでなく、寿命を短くします。

⚠注 意

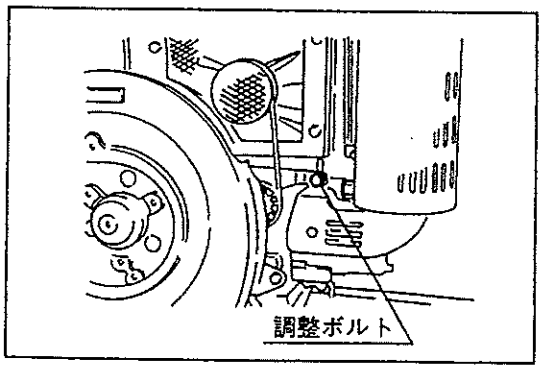
エンジンを停止した状態で点検をしてください。



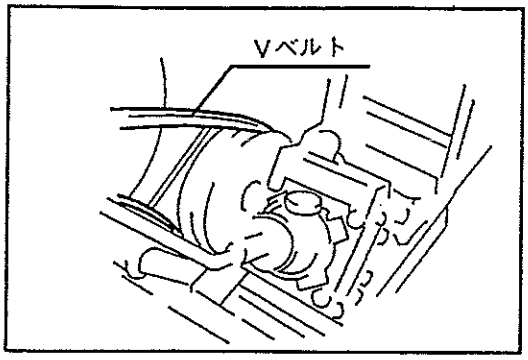
1. エンジンカバーを開けます。(☞ 11ページ)

2. ファンベルトを指で押さえ、冷却ファンベルトの張を点検します。

   たわみ量 : 5~10mm



3. たわみ量が上記の基準値内でない場合、調整ボルトを緩め、ドライバなどでアイドラーをベルトが張る方向へ突っ張り、調整ボルトを締め付けてボルトの張りを調整します。



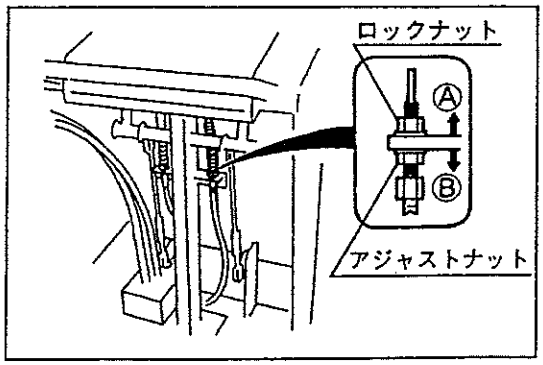
7.8.2 Vベルト

点検

1. カバーを取外します。
2. Vベルトに損傷がないか目視点検します。損傷がある場合は交換します。(販売店へ依頼してください。)

調整(Vベルトの滑り)

「7.8.3 走行クラッチ」を参照してください。



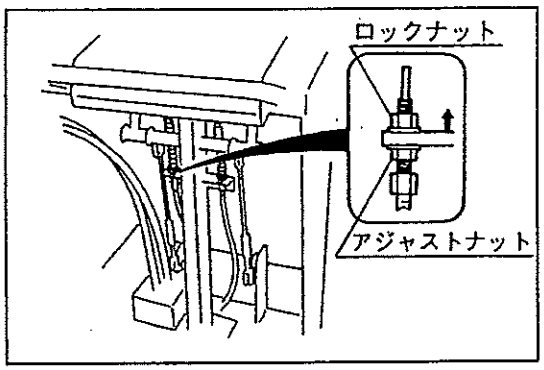
7.8.3 走行クラッチ

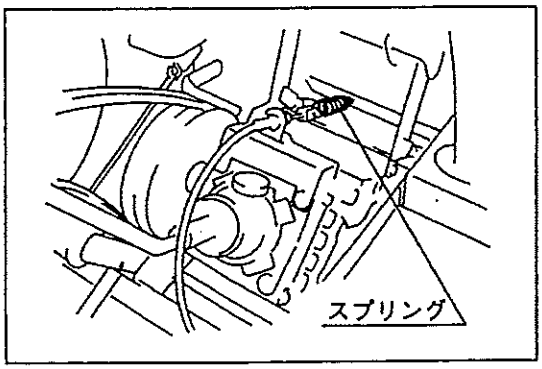
1. 走行クラッチレバーを「切」の位置にし、クラッチワイヤをフリーの状態にします。
2. クラッチワイヤのロックナットを緩めます。
3. アジャストナットを回し、クラッチワイヤを調整します。
   - 走行クラッチの切れが悪い場合
     アジャストナットをⒷの方向へ回します。
   - Vベルトが滑る場合
     アジャストナットをⒶの方向へ回します。
4. 調整後、ロックナットを確実に締め付けてください。

7.8.4 駐車ブレーキ

注　記

少しでも甘くなったりした場合は即座に下記の調整を行ない、常に安全を心掛けるようにしてください。



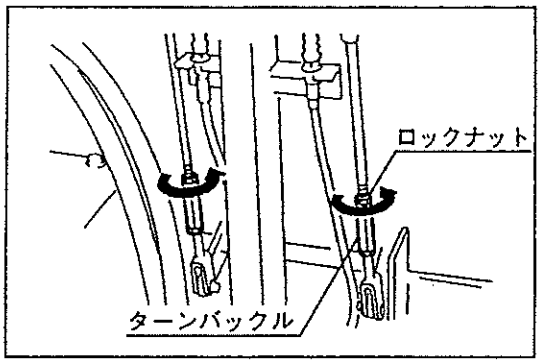


1. 駐車ブレーキレバーを「切」の位置にし、ブレーキワイヤをフリーの状態にします。
2. ブレーキワイヤのロックナットを緩めます。
3. アジャストナットを回し、駐車ブレーキワイヤを調整します。
   - ブレーキの効きが悪い場合
     アジャストナットを矢印の方向へ回転させ、ブレーキ「入」でトランスミッションとブレーキワイヤをつないでいる図示スプリングが3～5mm程度伸びるよう調整してください。
4. 調整後、ロックナットを確実に締め付けてください。

7.8.5 サイドクラッチ

注　記

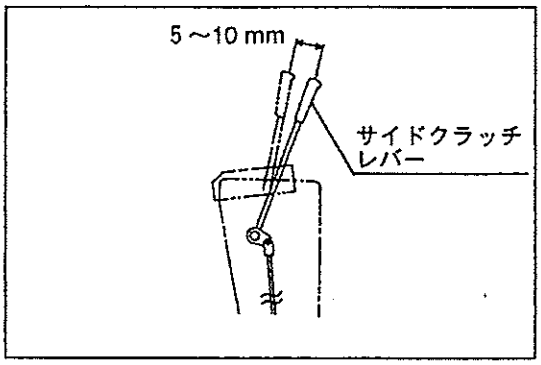
サイドクラッチレバーに遊びが多くなった時は、ターンバックルにて調整してください。（ミッション脱着時およびロッド類のオーバーホール時以外は、ほとんど調整の必要はありません。）旋回不良の場合は、トランスミッションのブレーキアジャストボルトにて調整してください。



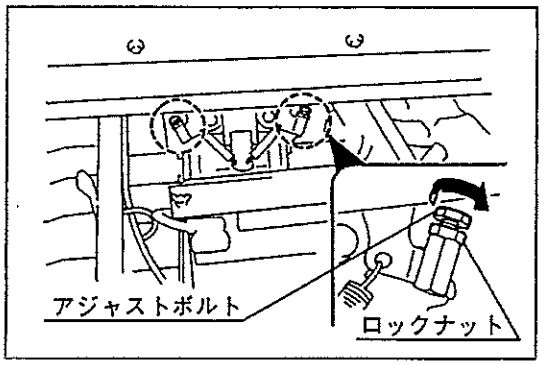
サイドクラッチレバーの遊びが多い場合

1. ターンバックルのロックナットを緩めます。
2. ターンバックルを回し、サイドクラッチレバーの遊びが下記の値になるよう調整します。（図示矢印方向に回すと、遊びは少なくなります。）

   サイドクラッチレバーの遊び：
   5～10 mm（レバーの握り部で）



3. 調整後は、ロックナットでターンバックルを確実に固定してください。



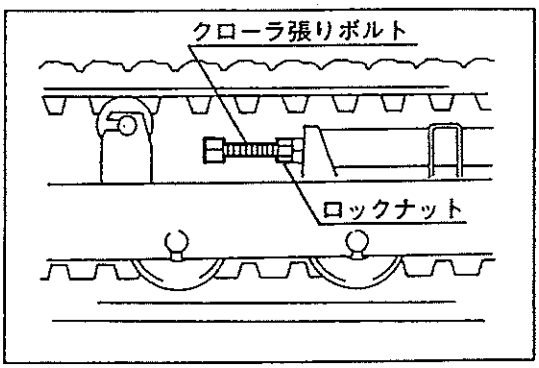
旋回不良の場合

1. 荷台を上昇させます。（☞22ページ）
2. ブレーキアジャストボルトのロックナットを緩めます。
3. ブレーキアジャストボルトを矢印方向へ回します。
4. 調整後、必ずロックナットを締めてください。

7.8.6 クローラの張り

注　記

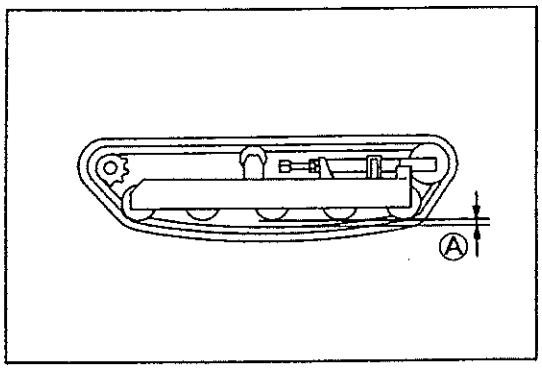
クローラは新品時には初期伸びが、走行距離が多くなるとスプロケットとのなじみによる緩みが生じるため調整が必要です。クローラの張りが正常でないと、脱輪したり、クローラの寿命を著しく縮める原因になります。



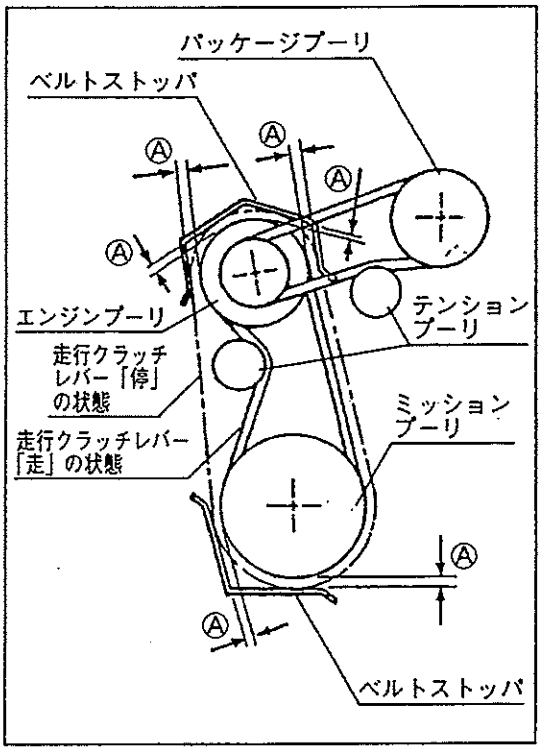
1. 車体を水平な場所に置きます。
2. ジャッキアップ等して片側のクローラを地面と平行に浮かせます。

⚠注　意

ジャッキ等が外れないように十分注意してください。



3. クローラ張りボルトのロックナットを緩めます。
4. クローラ張りボルトを回して、クローラと転輪の隙間（図示Ⓐ）を15～20mmに調整します。
5. 調整後、ロックナットを締め付けます。



7.8.7　ベルトストッパ

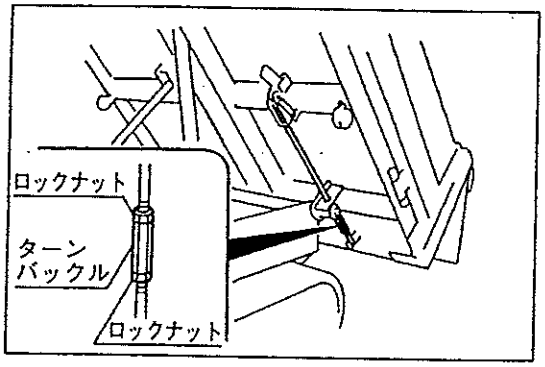
注　記

- **クラッチが完全に切れない原因にベルトストッパの調整不良があります。ベルト交換等によりベルトストッパをはずした場合、以下のように調整してください。**
- **調整はエンジン停止の状態で行ってください。**

1. 安全カバーを取外します。
2. 走行クラッチレバーが「走」の状態で、Vベルトとベルトストッパの間隔Ⓐを5mm程度にセットします。

注　記

ベルトが伸びて、ワイヤアジャスタでの調整ができなくなった場合には、防振ゴムとエンジンベースを固定しているボルトおよびパッケージ用Vベルトのテンションプーリ張りボルトのナットを緩め、エンジン本体を車体後方へスライドさせてください。



7.8.8 前ドアロック

注　記

荷台を下降させた状態で前ドアが閉まらない場合は、ターンバックルにて調整してください。

1. ターンバックルのロックナットを緩めます。
2. ターンバックルを回し、前ドアが下降時にロックするように調整します。
3. ロックナットを締め付けます。

7.9 使用後のお手入れ

（通常時の使用後のお手入れ）

・ 使用後は車体に付着した泥や異物を取除いてください。エンジンや操作盤の水洗いは水の浸入や錆付きの原因になるため避けてください。

・ 屋外に放置するときは、防水カバー等を掛けておくと効果的です。

（寒冷期の使用後のお手入れ）

・ 使用後必ず車体に付着した泥や異物を取除いて、コンクリートか固い乾燥した地面上または角材の上に駐車してください。付着物は凍結して故障の原因となります。（極寒冷地においては、クローラの下に枕木等を車体と直角に敷いておくと効果的です。）

注　記

凍結して運転不能となった場合は無理に動かそうとせずに、凍結箇所を水・お湯等で解かすか、凍結が解けるまで待ってください。無理に動かした場合の故障については責任を負いかねますので特にご注意ください。

・ 屋外に放置するときは、防水カバー等を掛けておくと効果的です。

8. 格納（長期保管）

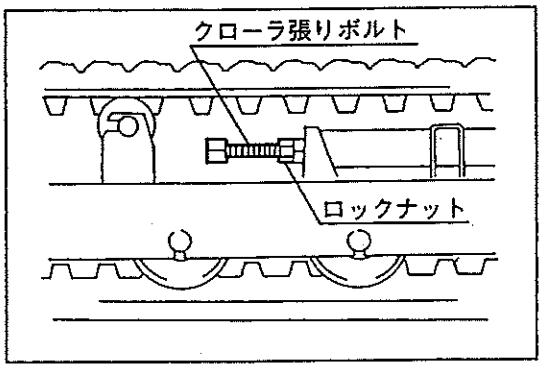
長期保管する場合は、次の使用時に備えて適切な処置をしておく必要があります。長期保管をする際は、使用後のお手入れ（☞40ページ）をした後、以下の指示に従ってください。

⚠危　険

火気のある場所および高温な場所に本機およびバッテリ、燃料等を格納しないでください。火災の原因となり危険です。

注　記

屋外および湿気やほこりの多い屋内での本機の格納は避け、格納時にはエンジンが冷えてから、防水シート等を本機にかけてください。



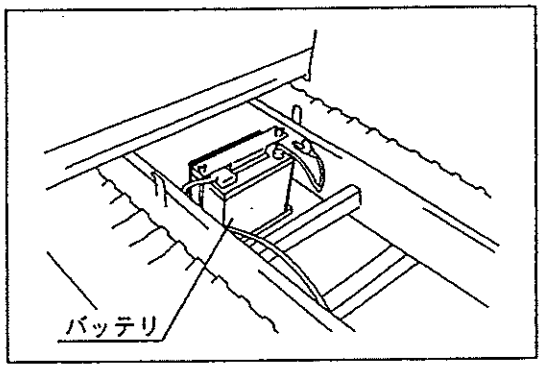
8.1 本機（車両）

1. クローラの張りボルトを緩めます。（☞38ページ）
2. 外面を油のしみた布で清掃し、回転摺動部は給脂します。
3. クローラの下に板等を敷きます。
4. 走行クラッチレバーを「切」、駐車ブレーキレバーを「切」の位置にします。
5. エンジンキーを抜きます。（セルフスタータ式のみ）

8.2 バッテリ（セルフスタータ式）

⚠注　意

バッテリ線を外す場合は、マイナス（−）を先にプラス（＋）を後で外し、接続する場合は、プラス（＋）を先にマイナス（−）を後で接続します。



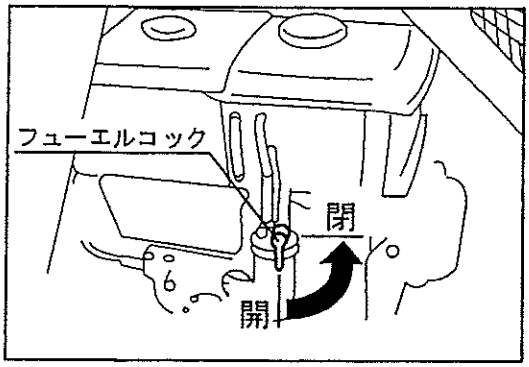
1. 荷台を上昇させます。（☞22ページ）
2. 本体（車両）からバッテリを取外します。
3. バッテリ液の量を確認し、必要な場合は補充します。
4. 低温で乾燥した場所に保管します。

参考：
バッテリは使用しなくとも約６ヶ月は蓄電していますが、放電してしまわないうちに充電すると、バッテリを長持ちさせることができます。

8.3 エンジン

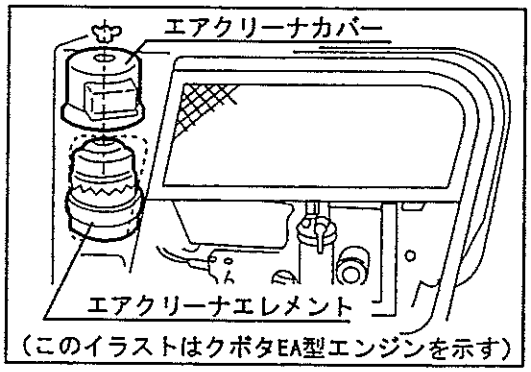
注　記

- 気化器内へ燃料を入れたまま長期間放置すると燃料が劣化し、始動不良および回転変動が生じますので、長期保管する場合は、気化器内および燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。また長期間放置した燃料はなるべく使用しないでください。
- エンジン保管の詳細については、付属の「エンジン取扱説明書」を参照してください。



8.3.1 フューエルコック

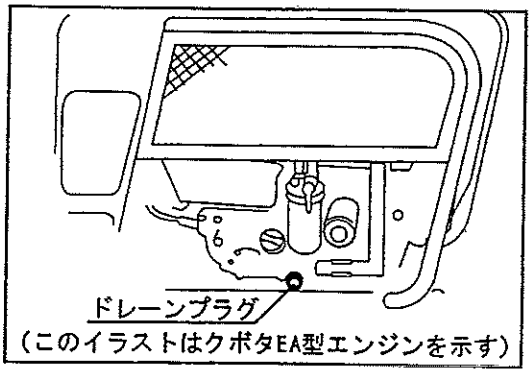
1. フューエルコックを「閉」の位置にして燃料の供給を停止します。



（このイラストはクボタEA型エンジンを示す）

8.3.2 エアクリーナエレメントの清掃

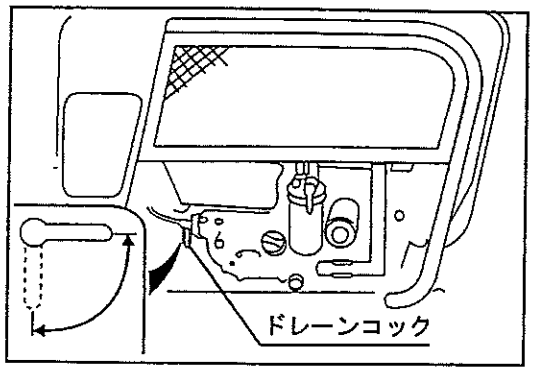
1. エアクリーナエレメントを取外し、確実に清掃します。(☞33ページ)



（このイラストはクボタEA型エンジンを示す）

8.3.3 エンジンオイルの交換

1. エンジンオイルを抜取り、新しいエンジンオイルと交換します。(☞28ページ)



8.3.4 エンジン冷却水の排出（ディーゼル車）

1. エンジン冷却水を完全に抜き取ります。(☞32ページ)

9. 不具合発生時の処置

- 不具合と考えられる現象が起きた場合は、本機の使用を停止し、下記の「不具合診断表」を参照して適切な処置をしてください。「不具合診断表」に掲載されていない不具合が発生した場合や適切な処置を行っても不具合が解消されない場合は、販売店または当社各センターまで連絡してください。

- 処置については、専門的な整備知識を必要とするものもありますので、整備が難しいものについては、販売店または当社センターに依頼してください。

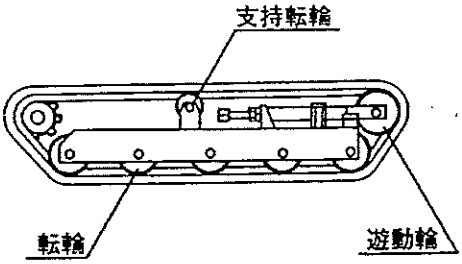
9.1 不具合診断表

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置
エンジン関連	エンジンがかからないまたはかかりにくい	• 燃料不足	▶ 補給する（☞11ページ）
		• 燃料の吸い込みすぎ	▶ 時間をおいて始動する
		• バッテリの容量不足ーセルモータの起動不良（セルフスタータ式エンジン）	▶ バッテリ液を補給する（☞32ページ） ▶ バッテリを充電する（販売店へ依頼してください） ▶ バッテリを交換する
			▶ 始動ハンドルを使って始動する（ディーゼルエンジン車）（☞15ページ）
			▶ スタータノブを使って始動する（ガソリンエンジン車）（☞14ページ）
		• バッテリ端子の外れまたは断線（セルフスタータ式エンジン）	▶ 接続または修理する（販売店へ依頼してください）
		• エンジンオイルの不足または品質不良	▶ 補給または交換する（☞28ページ）
		• 点火プラグの汚れまたは火花の飛び不足による着火不良（ガソリンエンジン車）	▶ 清掃または交換する（☞33ページ）
		• その他（上記以外）	▶ 本書の第6章6.2項「始動のしかた」の手順に従って再度始動を試み、始動不可能の場合は販売店へ修理を依頼してください。
	すぐにエンストする	• フューエルコックが開いていない	▶ フューエルコックを開く（☞13ページ）
		• 燃料不足	▶ 補給する（☞11ページ）
		• チョークの戻し忘れ（ガソリンエンジン車）	▶ チョークを戻す（☞14、16ページ）

9 不具合発生時の処置

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置
エンジン関連	エンジンが突然停止した	• 燃料切れ • エンジンオイル不足またはオイル劣化による焼き付き	▶補給する（☞11ページ） ▶点検および補給する（☞28ページ）
	アイドリング不良 (エンジン回転にムラがある)	———	▶販売店へお問い合わせください
	出力または加速不足	• Vベルトの緩み • スロットルの調整不良 • 過積載	▶調整する ▶販売店へお問い合わせください ▶積み荷をへらす
	エンジンまたはエンジン付近から異音または振動がする	• エンジンマウントの劣化 • その他	▶交換する（販売店へ依頼してください） ▶販売店へお問い合わせください
	エンジンオイルの消費が早い	• エンジンオイルの漏れ	▶点検および修理する
	エンジンのオーバヒート	• エンジンオイルの不足 • エンジン冷却水の不足 (ディーゼルエンジン車)	▶補給する（☞28ページ） ▶補給する（☞32ページ）
	燃料の消費が早い	• 燃料系統からの燃料漏れ • エアクリーナの目詰まり	▶点検および修理する（販売店へ依頼してください） ▶清掃または交換する（☞33ページ）
	黒煙が多量に出る (排気状態の不良)	• 圧縮不良 • エアクリーナの目詰り • チョークの戻し忘れ (ガソリンエンジン車)	▶点検および修理する（販売店へ依頼してください） ▶清掃または交換する（☞33ページ） ▶チョークを戻す（☞14、16ページ）
	白煙または青煙が出る (排気状態の不良)	• エンジンオイルが入り過ぎている • 燃料不良 • シリンダ、ピストンリングの摩耗	▶点検後、オイル量を調整する（☞28ページ） ▶燃料を交換する ▶点検および修理する（販売店へ依頼してください）
	スロットルレバーが引っ掛かる	• スロットルワイヤの折れ、錆付き • スロットルレバーの変形、作動不良	▶交換する（販売店へ依頼してください） ▶交換する（販売店へ依頼してください）

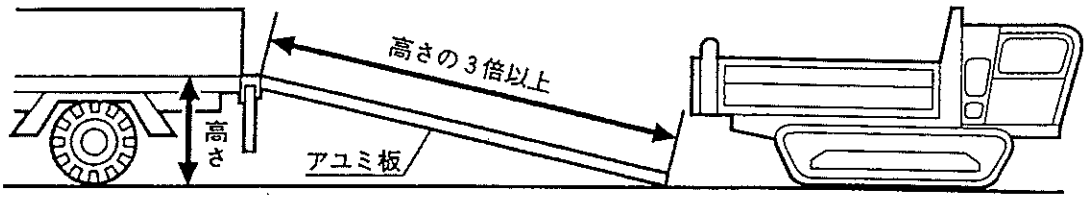
発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置
動力伝達装置関連	クラッチをつないでも車が動かない	• 確実に変速（シフト）していない • ブレーキが効いている • Vベルトが外れている、緩みすぎている • トランスミッションの故障	▶確実に変速（シフト）する ▶ブレーキの解除 ▶Vベルトをかける、または調整する ▶販売店へお問い合わせください
	クラッチの切れが悪い	• 調整不良	▶調整する（☞37ページ）
	クラッチをつなぐとVベルトが滑る	• 調整不良	▶調整する（☞37ページ）
	トランスミッション付近から異音がする	• ギヤの損傷、ベアリングの摩耗	▶販売店へお問い合わせください
	変速できない	• クラッチの調整不良 • ギヤの損傷、ベアリングの摩耗	▶調整する（☞37ページ） ▶販売店へお問い合わせください
	ギヤ抜けする	• 確実に変速（シフト）していない • ギヤの摩耗 • 過積載	▶確実に変速（シフト）する ▶販売店へお問い合わせください ▶積み荷を減らす
	サイドクラッチで遊びが発生する	• 調整不良	▶調整する（☞38ページ）
	旋回が円滑に行えない	• 調整不良	▶調整する（☞38ページ）
ブレーキ	効きが悪い	• 調整ナットの緩み • ブレーキライニングの摩耗 • ブレーキドラム内にオイルが浸入 • ブレーキドラム内に水が浸入 • 過積載	▶調整する（☞37ページ） ▶ライニングを交換する（販売店へ依頼してください） ▶オイルシールを交換する（販売店へ依頼してください） ▶何回かブレーキをかけて中の水を乾かす ▶積み荷を減らす

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置
クローラ	クローラが円滑に回転しない	• 調整不良	▶調整する（☞38ページ）
転輪、支持転輪、遊動輪	不連続音がある	———	▶不良部品を交換する（販売店へ依頼してください）
	異常発熱がある	———	▶不良部品を交換する（販売店へ依頼してください）
			
ダンプ装置	ダンプ装置が作動しない	• パワーパッケージのオイル不良 • 油圧系統からのオイル漏れ	▶給油する（☞30ページ） ▶点検および修理
荷台	前ドアの開閉不良	• ドアロックの調整不良	▶調整する（☞40ページ）

10. 本機の移送

本機の移送のために、自動車（トラック）へ積降ろしする際は、下記の手順および注意事項を遵守してください。

1. アユミ板は、十分な強度（機械重量および運転者の体重の総和に十分耐え得ること）、幅（クローラの1.2倍以上）、長さ（トラック荷台床面の高さの３倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用し、本機の重量でアユミ板が傾いたりしない場所を選んでください。



2. アユミ板のフックは、荷台に段差のないように、また、ずれないように確実に掛けてください。

3. 積降ろしのとき、運転者は本機から降りて操作してください。

⚠危　険

- **作業中は本機およびアユミ板の周辺には、人を近づけないようにしてください。**
- **アユミ板上での方向変換は行わないでください。転落の危険があります。**
- **アユミ板を上がるときは前進１速、アユミ板を下るときは後進１速にてゆっくりと走行してください。**

⚠注　意

アユミ板と自動車（トラック）の荷台の境目で機械の重心が急に移動することがあるので注意してください。

株式会社 筑水キャニコム

http://www.canycom.co.jp

■本社営業部 ☎0943(75)2195(代) FAX (75)4396
■貿易センター ☎03(3552)6255(代) FAX(3552)6288
■東京センター ☎03(3552)6255(代) FAX(3552)6288
■仙台センター ☎022(281)1255(代) FAX (281)3141
■埼玉センター ☎0495(77)4511(代) FAX (77)1561
■大阪センター ☎0790(42)6031(代) FAX (42)6035
■広島センター ☎0824(34)5996(代) FAX (34)5997
■福岡センター ☎0943(76)2583(代) FAX (75)5126

連絡先控え（販売店名）

本書の無断転載、複写を禁止します。